

Ⅱ．認知症のひとへの地域支援

**三重県認知症コールセンター活動実績
(H28年度～平成30年度)**

認知症普及・相談・支援事業 三重県認知症コールセンター事業

1 目的

認知症の本人や家族に対しては、認知症の各ステージにおいて、認知症の知識や介護技術の面だけではなく、精神面も含めた様々な支援が重要であり、各都道府県、指定都市単位で認知症介護の専門家や経験者等が対応するコールセンターを設置することにより、地域の実情に応じた効果的な支援を行う。

2 事業内容

認知症の本人や家族の相談に、認知症介護の専門家や経験者等が対応する電話相談事業

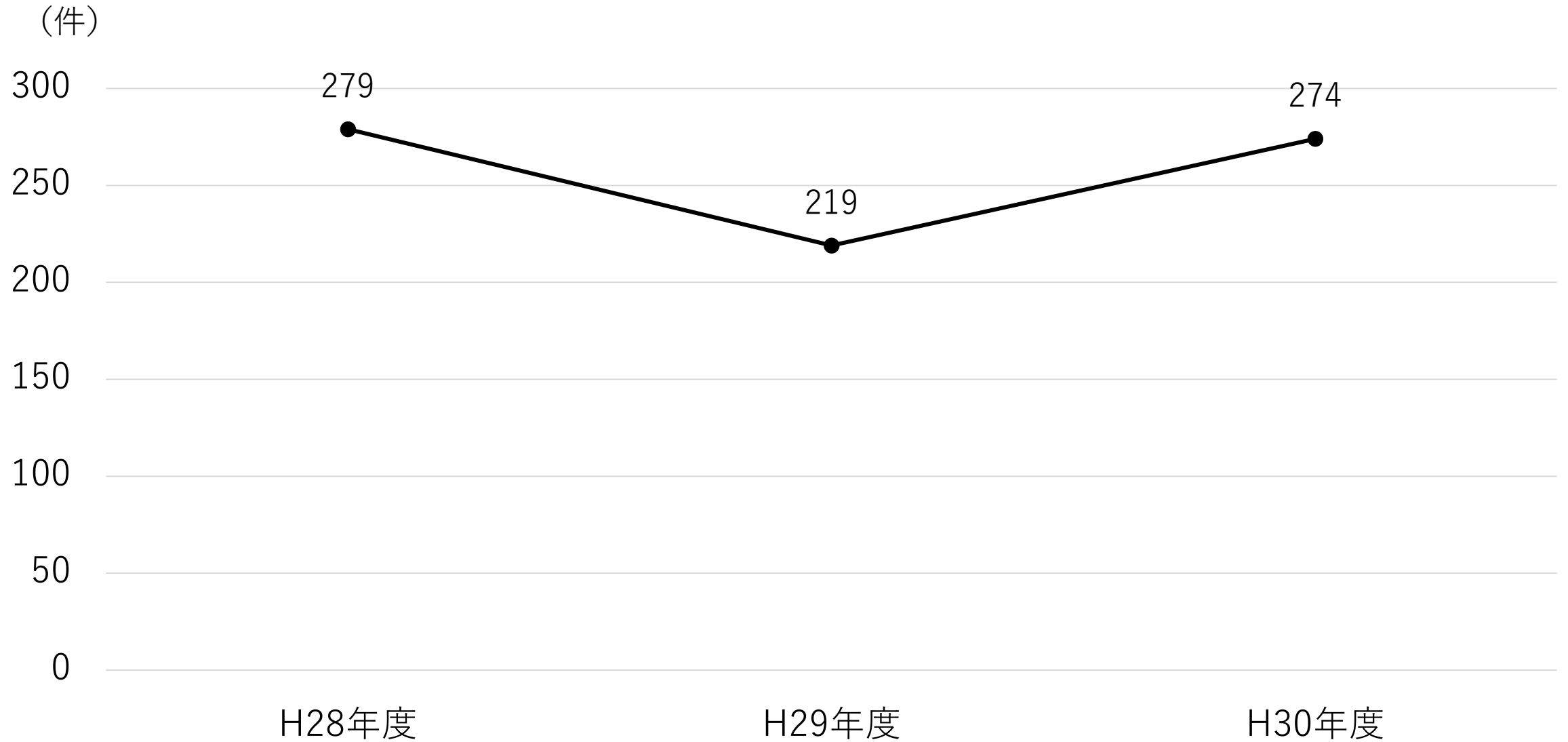
3 実施主体

認知症の人と家族の会三重県支部へ委託

相談時間等：月、火、木、金、土 午前10時から午後6時まで（祝日及び年末年始除く）

※平成24年度から平成28年度までは特定非営利活動法人「HEART TO HEART」へ委託。
平成29年度からは認知症の人と家族の会三重県支部へ委託。

◆相談件数

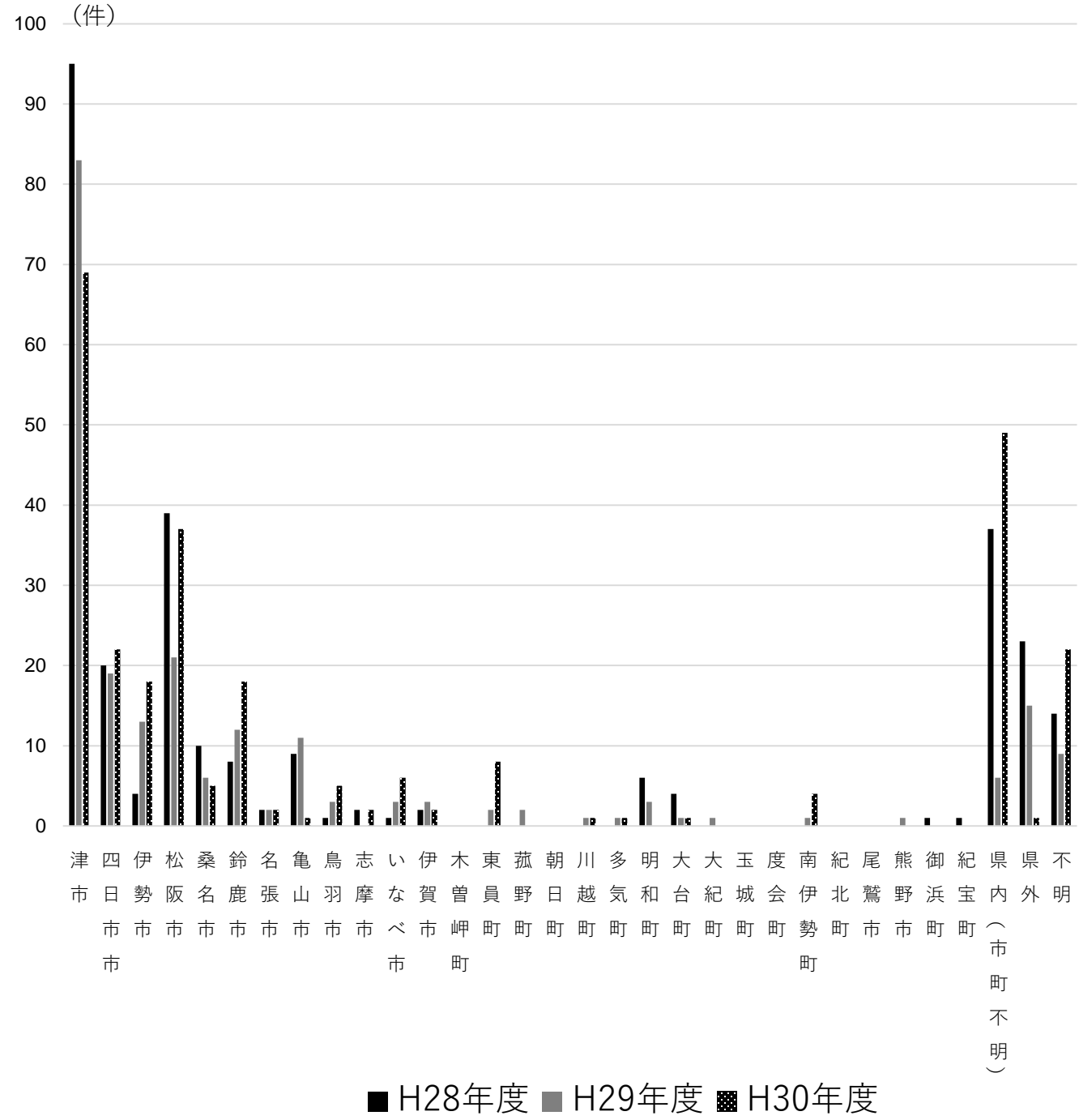


※平成28年度は特定非営利活動法人「HEART TO HEART」へ委託。
平成29年度からは認知症の人と家族の会三重県支部へ委託。

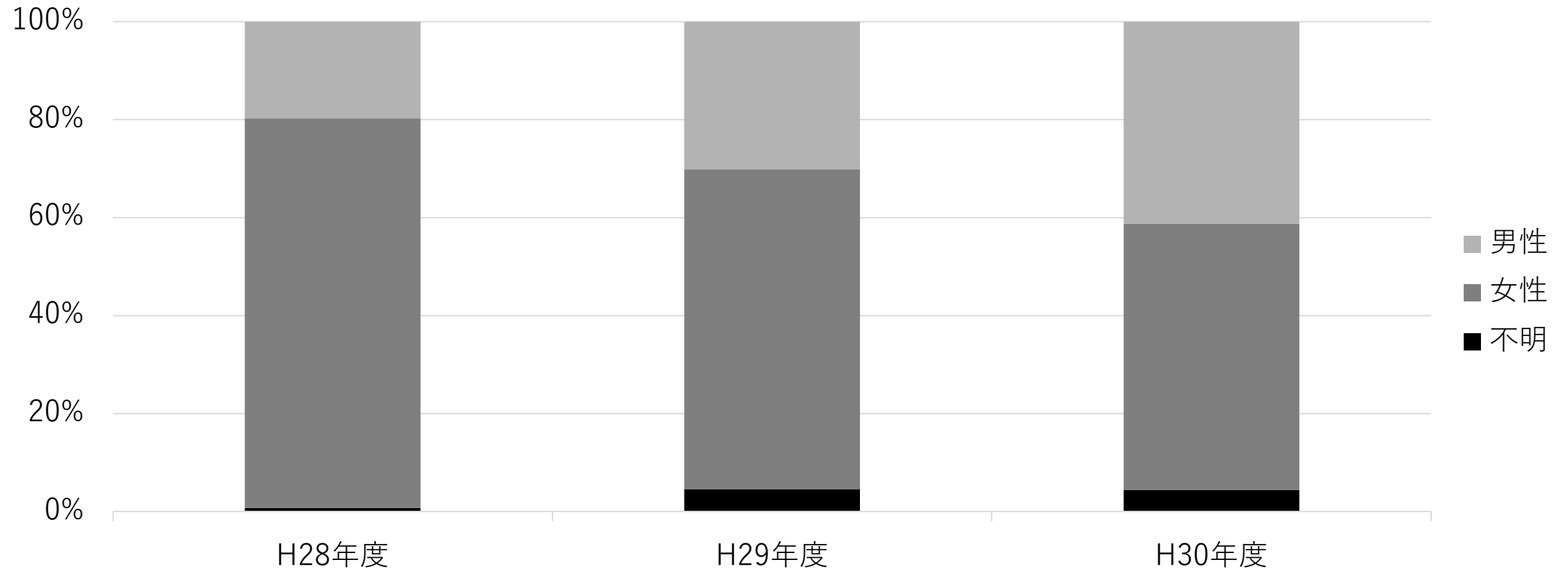
◆市町相談件数

地域別

津市	95	83	69
四日市市	20	19	22
伊勢市	4	13	18
松阪市	39	21	37
桑名市	10	6	5
鈴鹿市	8	12	18
名張市	2	2	2
亀山市	9	11	1
鳥羽市	1	3	5
志摩市	2	0	2
いなべ市	1	3	6
伊賀市	2	3	2
木曽岬町	0	0	0
東員町	0	2	8
菰野町	0	2	0
朝日町	0	0	0
川越町	0	1	1
多気町	0	1	1
明和町	6	3	0
大台町	4	1	1
大紀町	0	1	0
玉城町	0	0	0
度会町	0	0	0
南伊勢町	0	1	4
紀北町	0	0	0
尾鷲市	0	0	0
熊野市	0	1	0
御浜町	1	0	0
紀宝町	1	0	0
県内（市町不明）	37	6	49
県外	23	15	1
不明	14	9	22
計	279	219	274

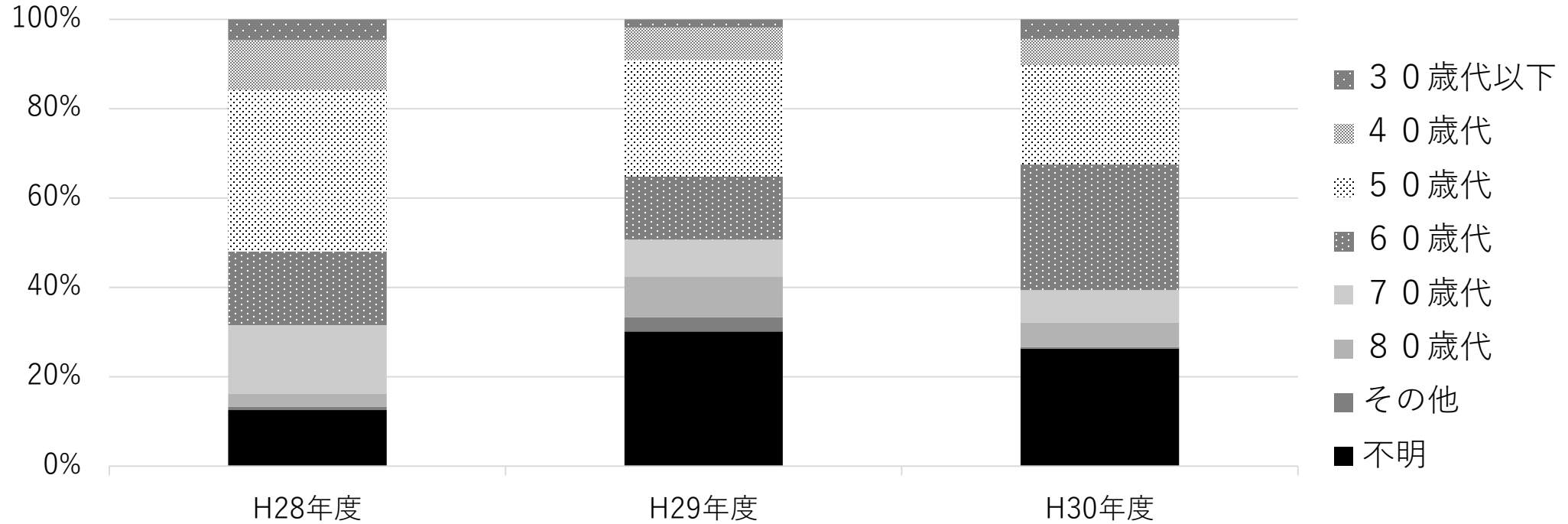


◆相談者の性別



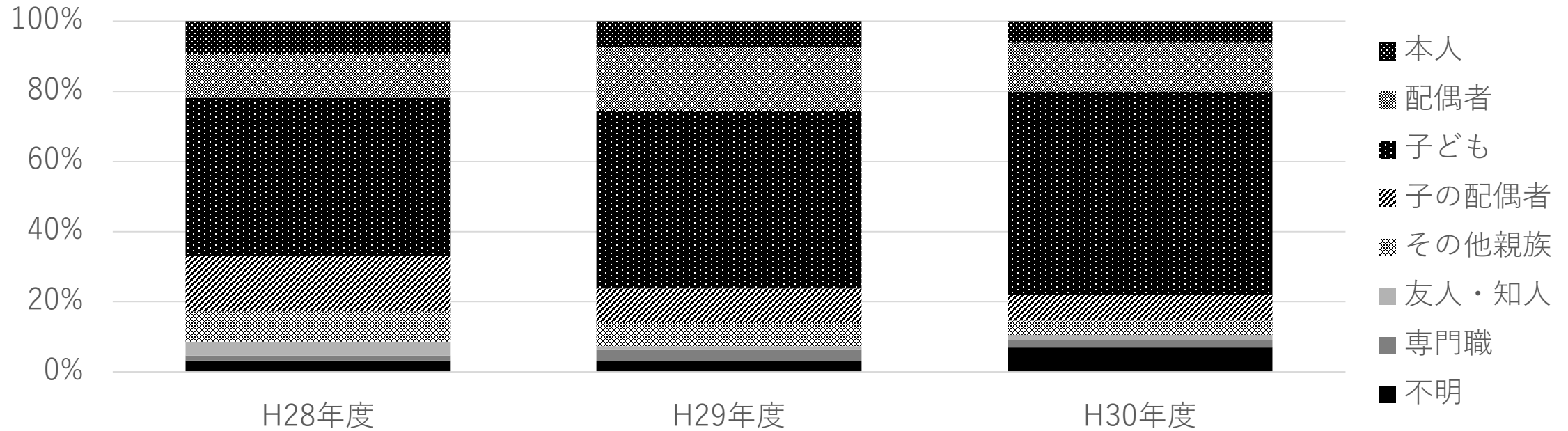
性別 (件)		H28年度	H29年度	H30年度
	男性	55	66	113
	女性	222	143	149
	不明	2	10	12
	計	279	219	274

◆相談者の年代



		H28年度	H29年度	H30年度
年代別 (件)	30歳以下	13	4	12
	40歳代	31	16	16
	50歳代	101	57	61
	60歳代	46	31	77
	70歳代	43	18	20
	80歳代	8	20	15
	その他	2	7	1
	不明	35	66	72
	計	279	219	274

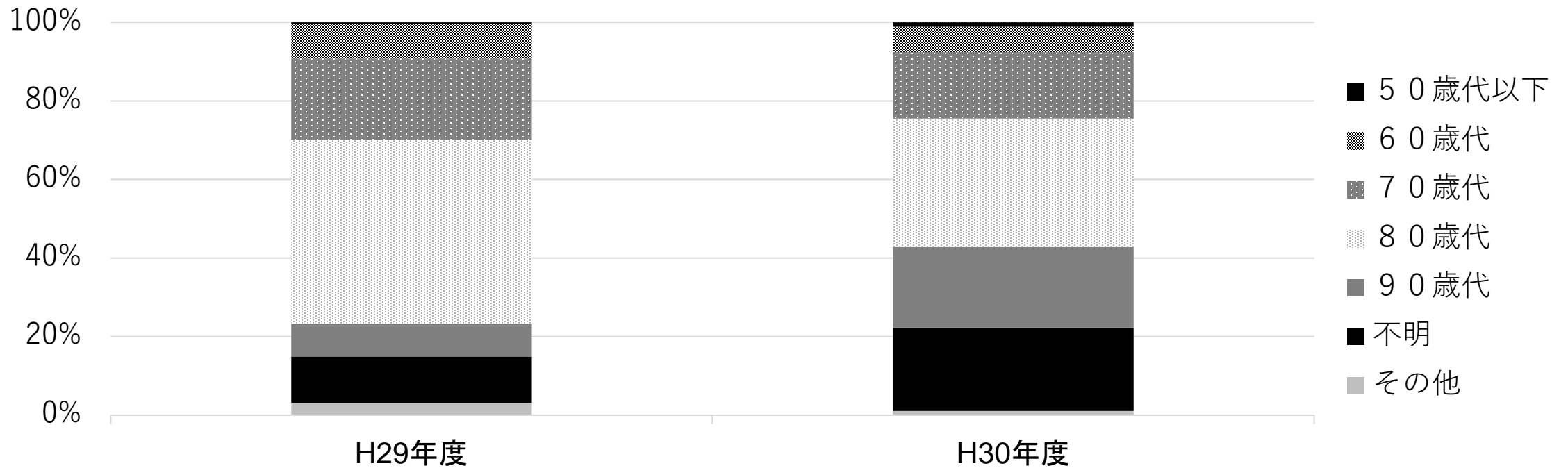
◆相談者の続柄（患者からみた続柄）



※患者からみた続柄 (件)		H28年度	H29年度	H30年度
	本人	26	16	17
	配偶者	35	40	38
	子ども	126	111	159
	子の配偶者	44	21	20
	その他親族	24	15	11
	友人・知人	11	2	4
	専門職	4	7	6
	不明	9	7	19
計	279	219	274	

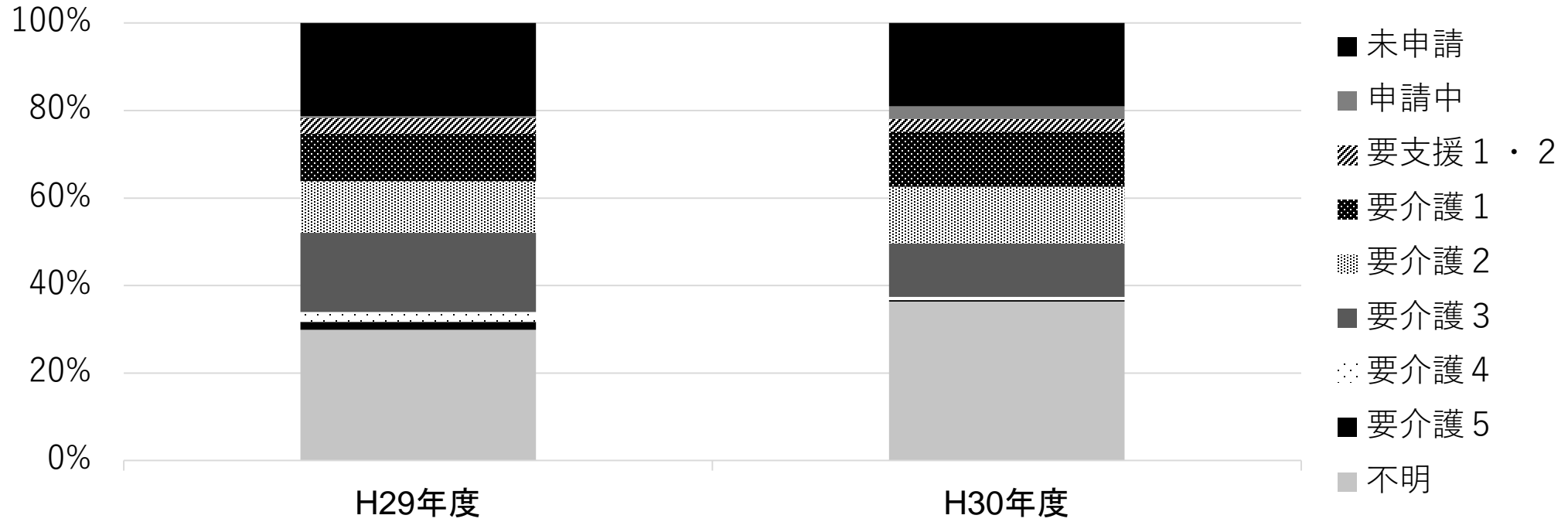
◆患者の年代

※複数回答あり



患者の年代 ※複数回答あり (件)		H29年度	H30年度
	50歳以下		1
60歳代		20	18
70歳代		47	47
80歳代		107	91
90歳代		19	57
不明		27	59
その他		7	3
計		228	278

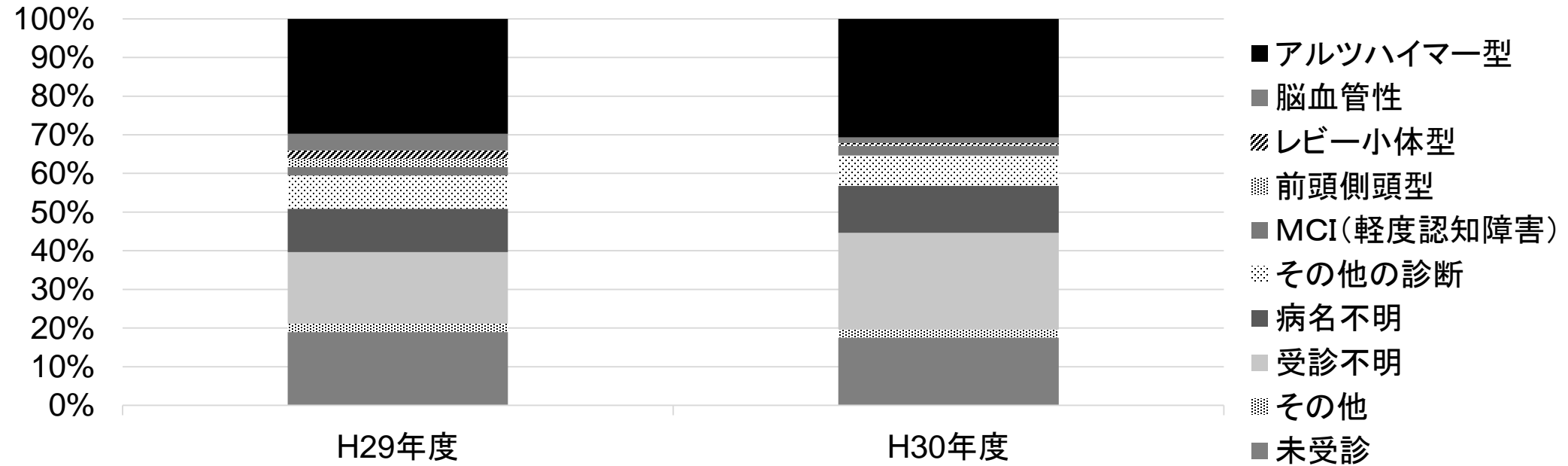
◆患者：介護度



介護認定 (件)		H29年度	H30年度
	未申請	47	53
	申請中	1	8
	要支援1・2	8	8
	要介護1	24	35
	要介護2	26	36
	要介護3	40	34
	要介護4	5	2
	要介護5	4	1
	不明	66	101
	計	221	278

◆患者の診断名

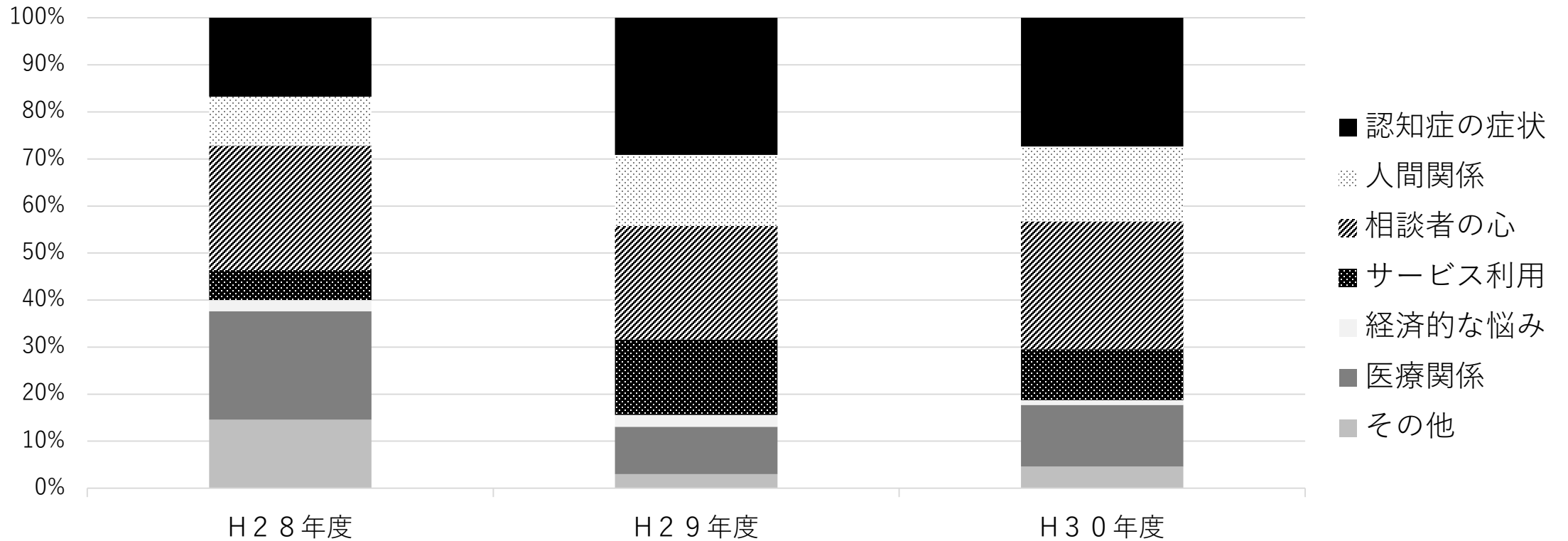
※複数回答あり



		H29年度	H30年度
※診断名(件) ※複数回答あり	アルツハイマー型	69	86
	脳血管性	10	4
	レビー小体型	5	1
	前頭側頭型	5	1
	MCI(軽度認知障害)	5	7
	その他の診断	20	22
	病名不明	26	34
	受診不明	43	70
	その他	5	6
	未受診	44	49
	計	232	280

◆相談内容

※複数回答あり



		H28年度	H29年度	H30年度
※複数回答可 相談内容(件)	認知症の症状	207	116	136
	人間関係	129	60	79
	相談者の心	326	96	135
	サービス利用	79	64	54
	経済的な悩み	29	10	5
	医療関係	285	40	65
	その他	180	12	23
	計	1235	398	497

玉城町レセプトデータ研究の取組みについて

1)玉城町レセプトデータ研究（第1期）

◆ 背景

認知症患者への早期介入のため初期集中支援チームが全国的に設置されているが、その対象者の把握は地域包括支援センターを介した相談や家族らからの相談に頼っており、ケアに紐づけない認知症患者の発見が困難という問題がある。そこで、玉城町と三重大学が協力し、研究事業として三重県に申請し、後期高齢者レセプトデータから地域包括ケアに紐づけない認知症患者、軽度認知障害者を同定して、医療・ケアへの紐づけを行うこととなった。三重大学、玉城町、たまきあい（合同会社；玉城町外郭団体）の三者間守秘研究協定のもとに調査を行った。

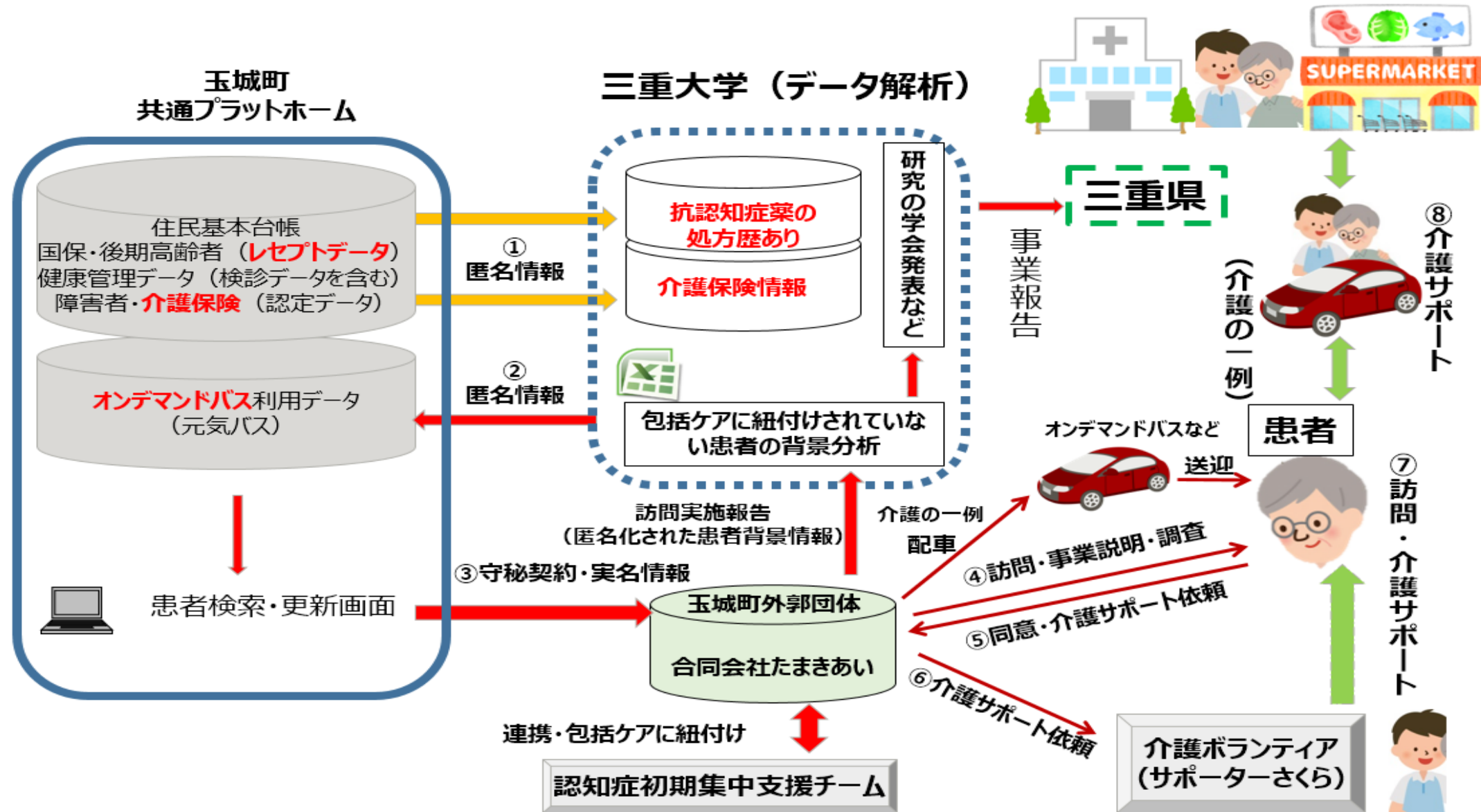
◆ 対象

2016年5～6月の三重県度会郡玉城町が管理する1,809名の後期高齢者レセプトデータ

◆ 方法

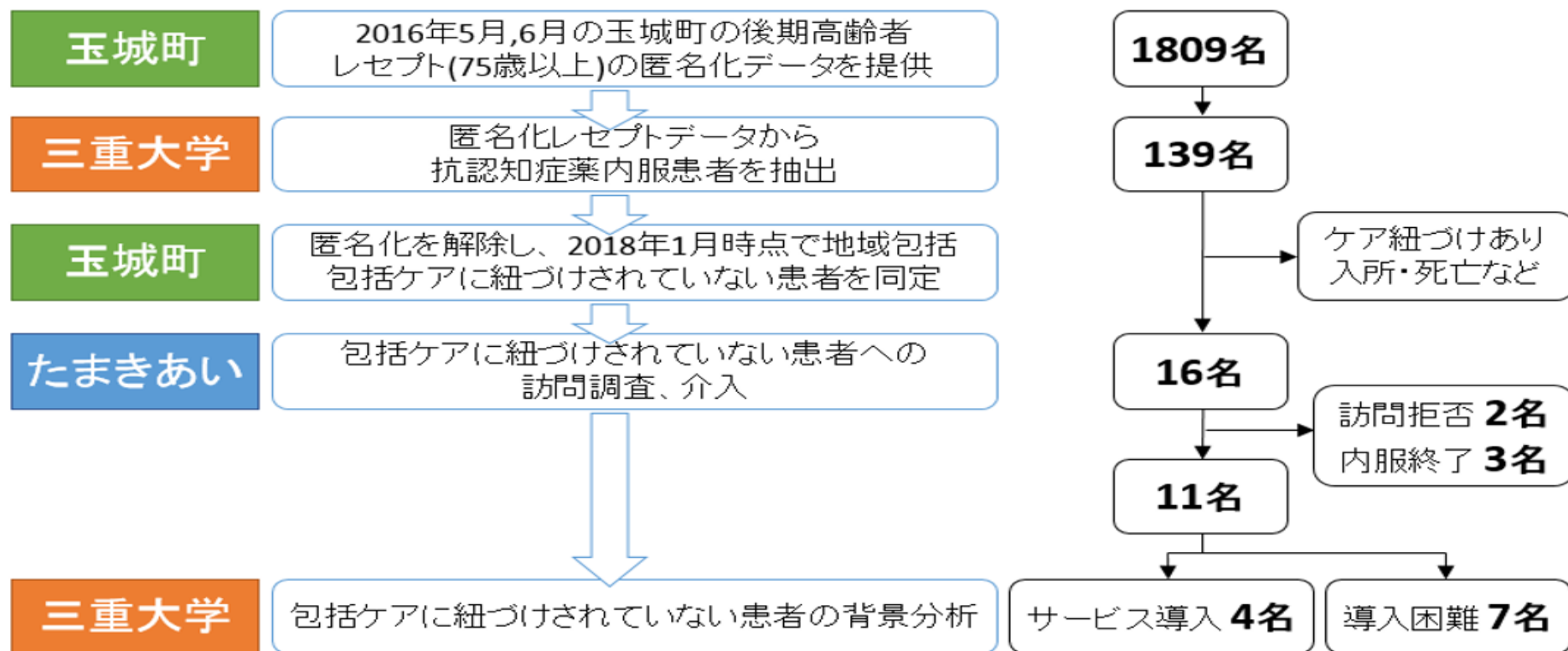
完全匿名化したレセプトデータから抗認知症薬内服患者139名を抽出し、その内2018年1月時点で介護保険利用歴などから地域包括ケアに紐づけない患者を同定して背景調査、介入を行った。

「認知症患者の早期受診と介護連携の試み」事業図（第1期）



◆ 結果

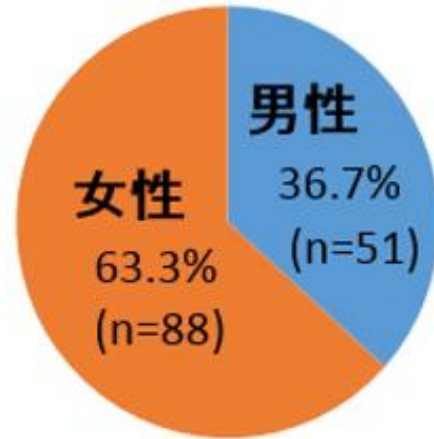
2016年5月、6月の玉城町の後期高齢者（75歳以上）レセプトデータは、1809名であった。うち、抗認知症薬内服患者は139名で、その中で2018年1月時点で地域包括ケアに紐づけされていない患者は16名であった。包括ケアに紐づけされていない患者への訪問調査では、16名のうち2名が訪問拒否、3名が内服終了だった。残りの11名は、訪問調査後に4名が介護サービスの利用を開始し、導入困難であったのが7名だった。



地域包括ケアに紐付けのない患者の内訳は以下のとおりである。

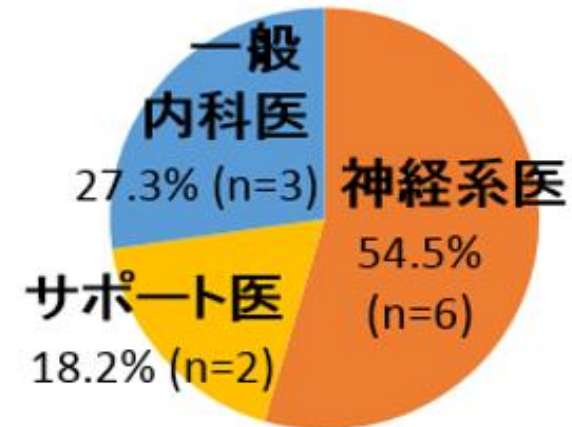
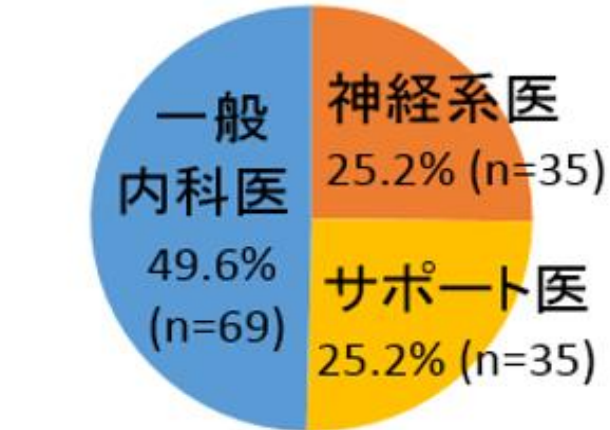
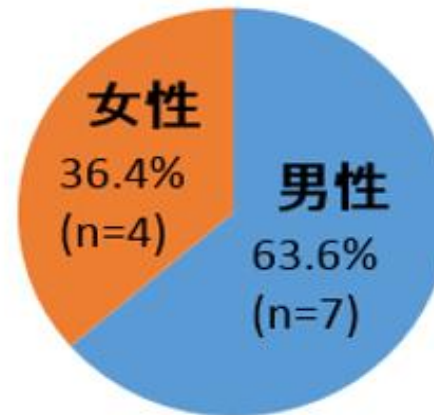
性別

抗認知症薬内服患者
(n=139)

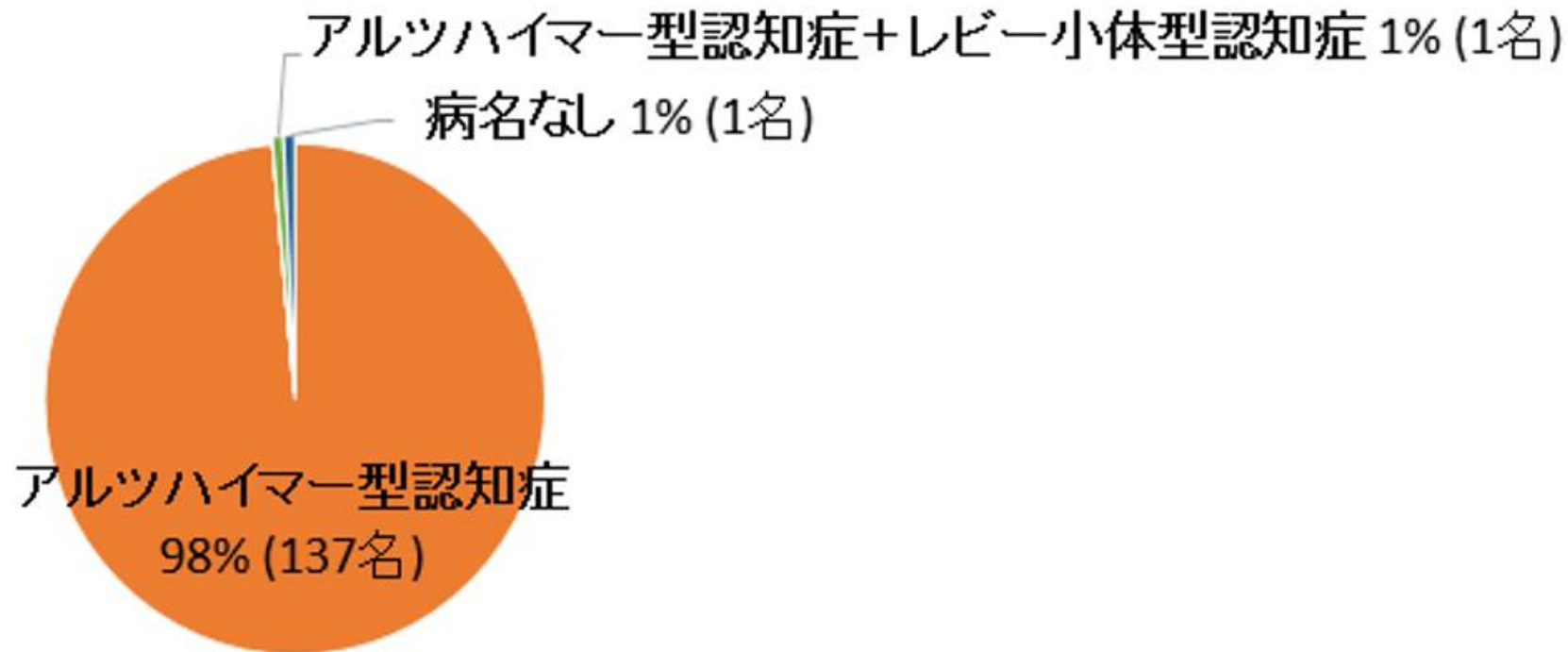


処方医

ケアに紐付けのない患者
(n=11)



抗認知症薬内服患者（139名）における、認知症タイプの内訳は以下のとおりである。
処方された薬剤名は、アリセプト（ドネペジル）、レミニール、リバスパッチ、イクセロンパッチ、メマリーである。これらの薬剤は保険適用病名が、「アルツハイマー型認知症」と「レビー小体型認知症」なので、「血管性認知症」や「前頭側頭型認知症」は病名としてあがっていない。次に、訪問調査を行った11名の患者背景情報を示す。
11名の平均年齢は84.8±5.0歳、男性7名、老々世帯は5名で独居は1名であった。
日常生活自立度J1, 2が9名(81.8%)、認知症生活自立度Iが6名(54.5%)であった。



◆ 抗認知症薬の処方歴があって地域包括ケアに紐づけされていない 地域在住認知症高齢者の特徴

- ・男性が多い。
- ・家庭の介護力がある。独居者は少ない。
- ・介護保険主治医意見書の日常生活自立度で生活自立群（ランクI）が多い。
- ・病識が乏しく介護予防事業やデイサービス利用に否定的である。
- ・運転を継続している可能性がある。

◆ まとめ

初期集中支援事業の既報告と異なり、独居や老々世帯の割合が少ない、日常生活自立度が高い、男性が多いなどの特性を持つ、網羅的スクリーニングでのみ把握できる一群が存在する。本研究によりケアへの紐づけがされにくい患者に対し早期に介入を行い、認知症の予防、増悪を阻止できる可能性が明らかになった。

2) 玉城町レセプトデータ研究（第2期）

第1期の研究をさらに展開するかたちで、国保レセプトデータへの援用によって対象を拡大し、並行してたまきあいや介護ボランティア、地域包括支援センター等の連携による早期認知症患者への生活支援を推進する。認知症ケアの医療介護連携体制の構築事業（平成30年度～）の一環として実施した。

◆ 対象

国保レセプトデータ6,000名で抗認知症薬を処方されているが、地域包括ケアの利用がない方

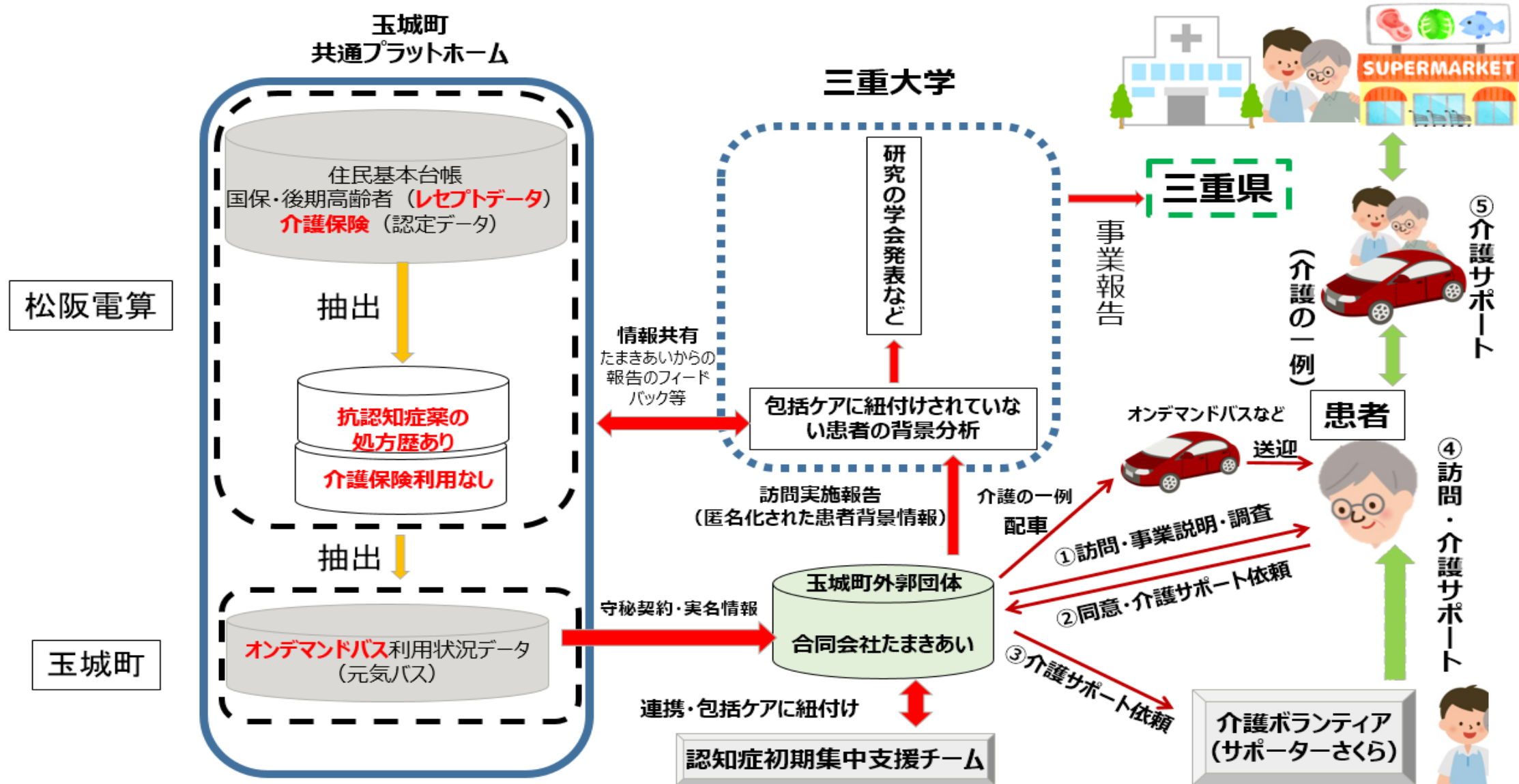
◆ 期間

研究期間は承認日（2017年6月15日）から2020年3月31日

◆ 方法

完全匿名化したレセプトデータから抗認知症薬内服患者を抽出し、その内、介護保険利用歴などから地域包括ケアに紐づけのない患者を同定して背景調査、介入を行う。対象者宅訪問後に、たまきあい、介護ボランティア、地域包括支援センター、認知症初期集中支援チームのスタッフ等の連携によって、地域包括ケアの利用支援を行う。

「認知症患者の早期受診と介護連携の試み」事業図（第2期）



三重県内の認知症サポーター養成状況について

認知症地域支援体制構築等推進事業

認知症キャラバン・メイト養成研修、認知症サポーター養成講座

1 目的

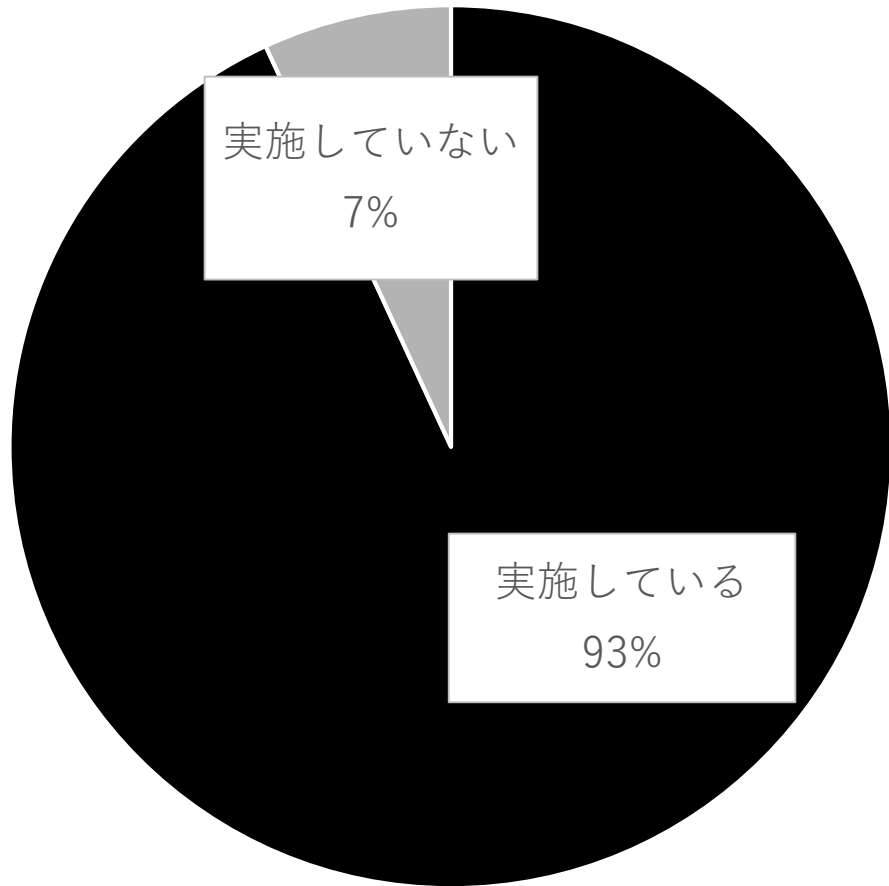
認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーター等を養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることのできる地域づくりを推進する。

2 事業内容

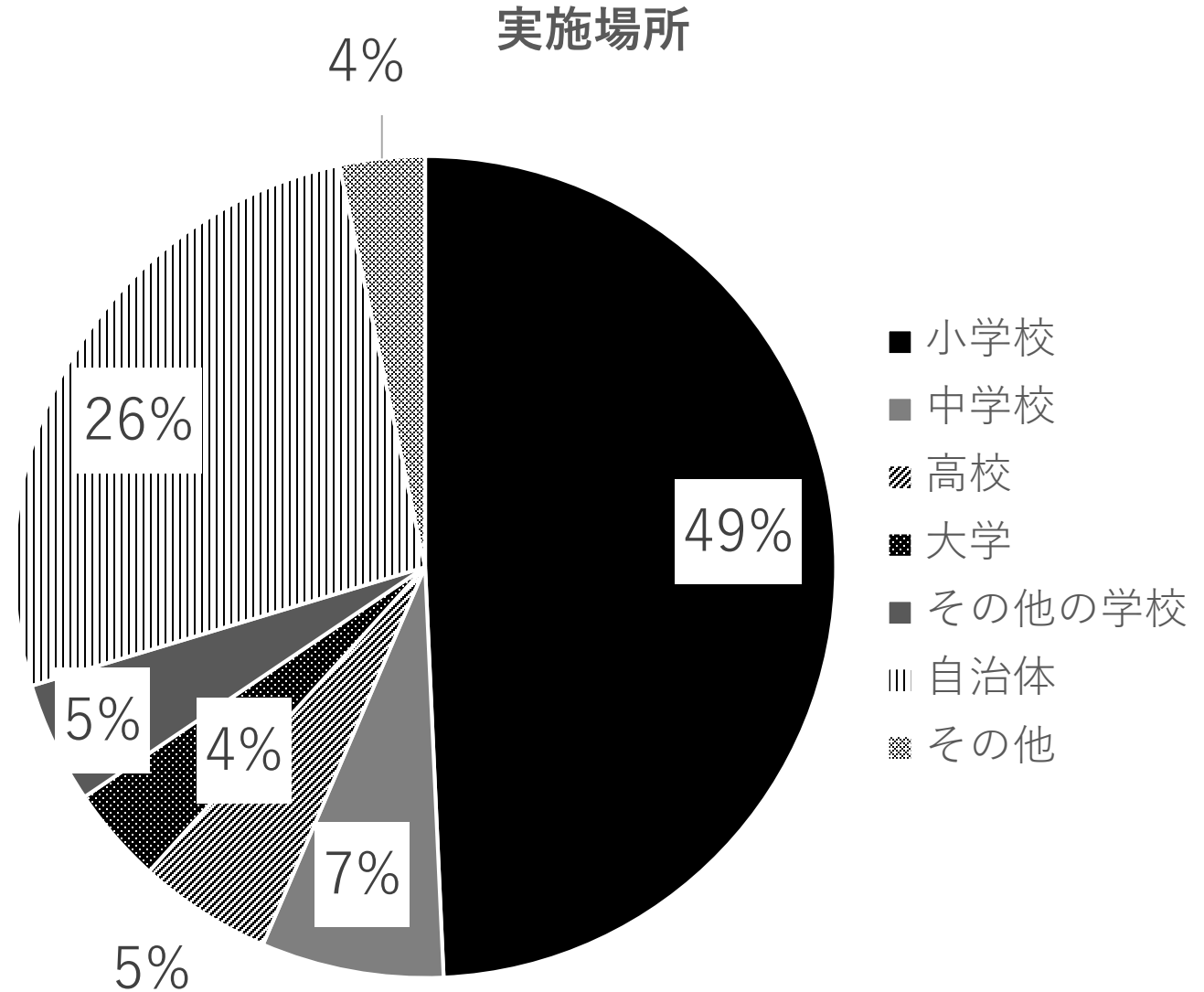
- (1) 認知症キャラバン・メイト養成研修の開催
 - ・ 県単独、市町との協働（1市町）で計2回以上開催
- (2) 認知症サポーター養成講座の開催
 - ・ 金融機関や小売業等の企業を対象にした講座
 - ・ 県職員等の自治体職員を対象にした講座
- (3) 「認知症サポーターステップアップ講座」を市町との協働（3市町）で計3回開催

◆学校・自治体での認知症サポーター養成講座の実施状況（三重県） （N=29）

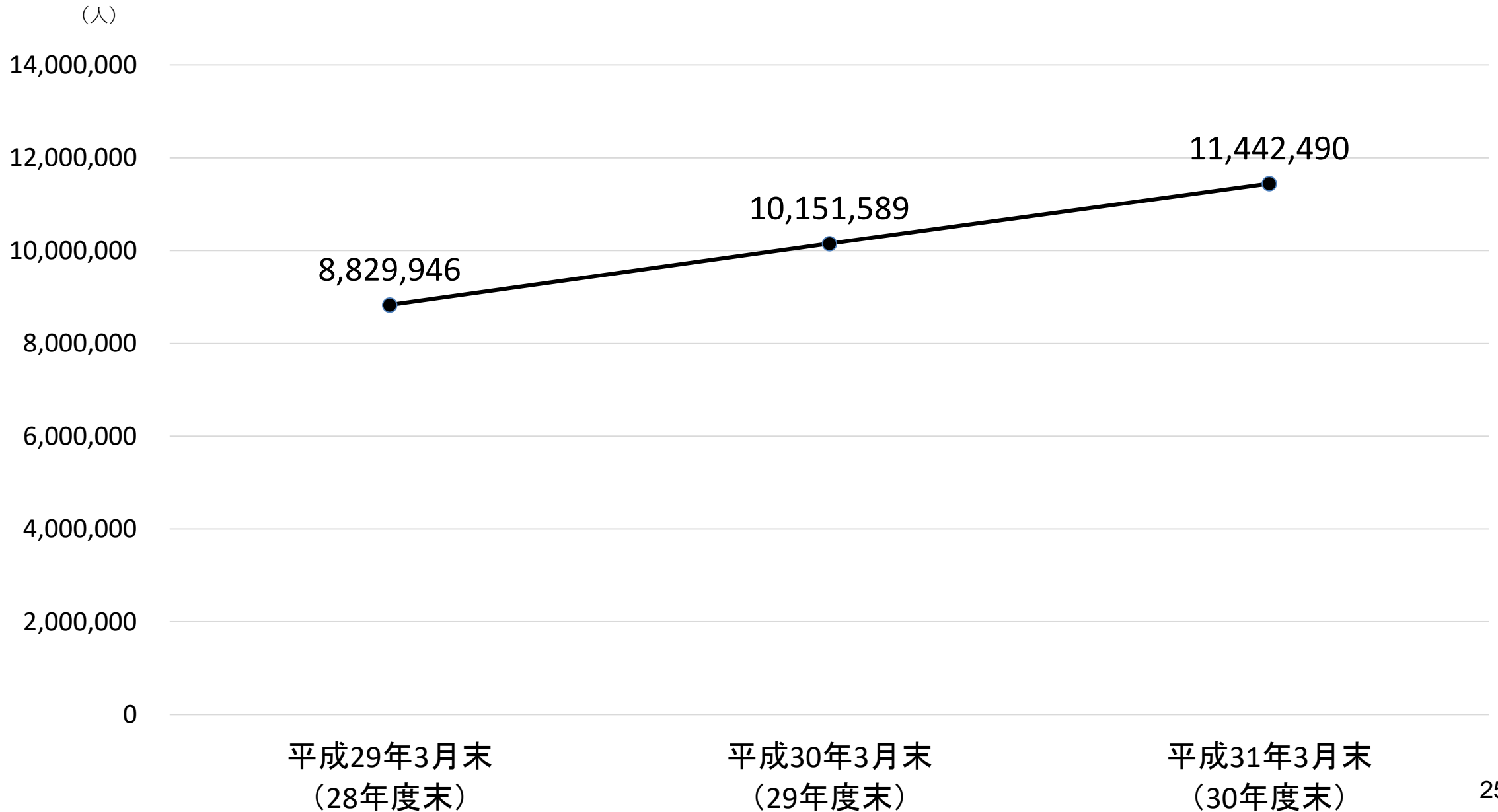
実施の有無



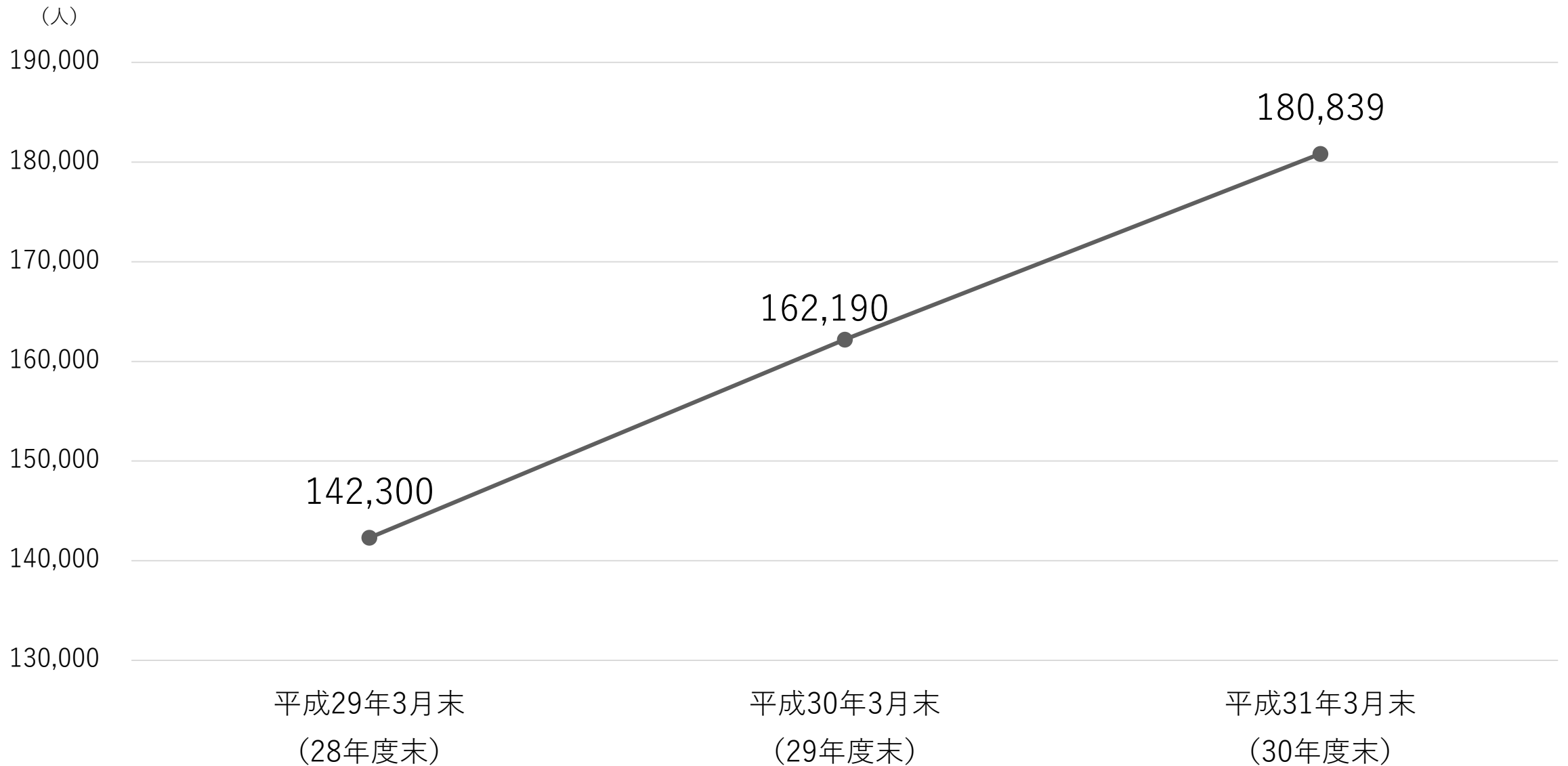
実施場所



◆認知症サポーター数の推移（全国）

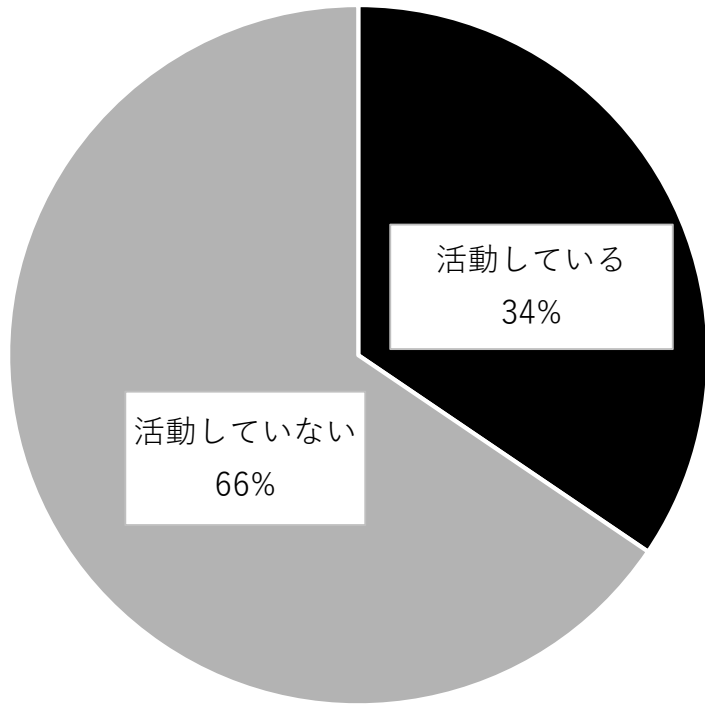


◆認知症サポーター数の推移（三重県）

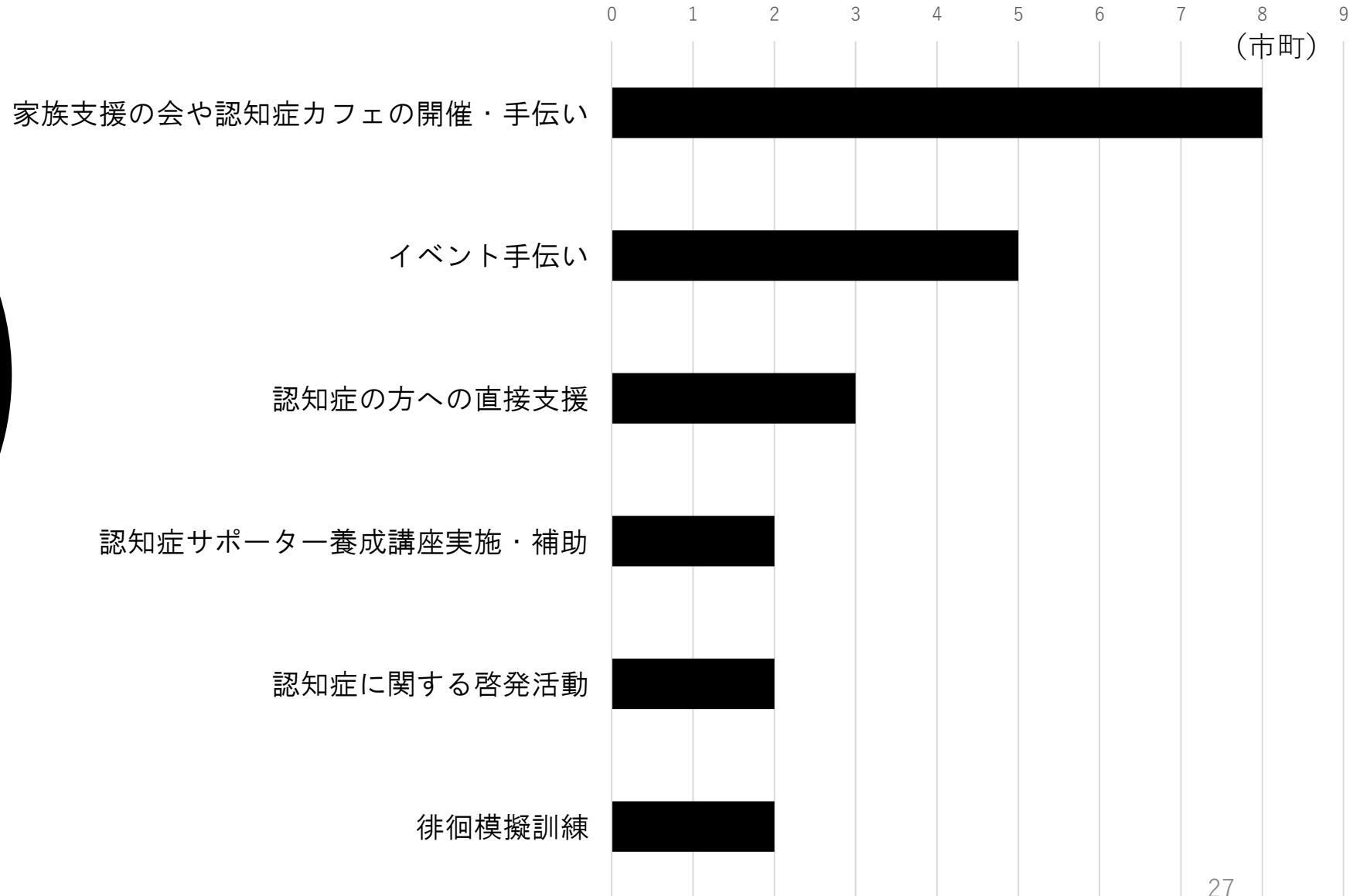


◆認知症サポーターの自主グループの活動

自主グループ活動の有無

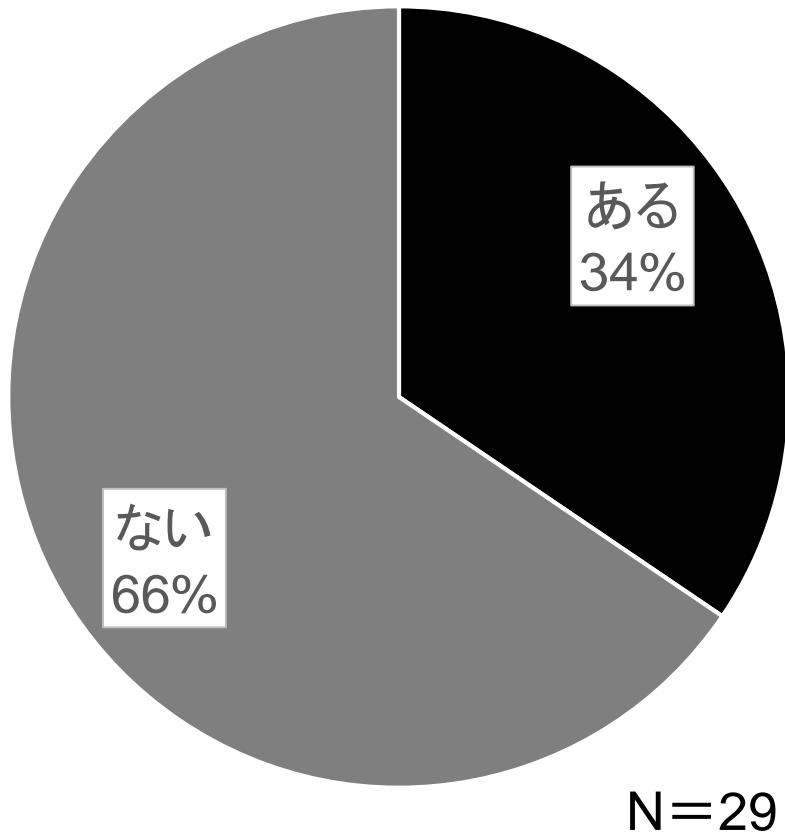


N = 29

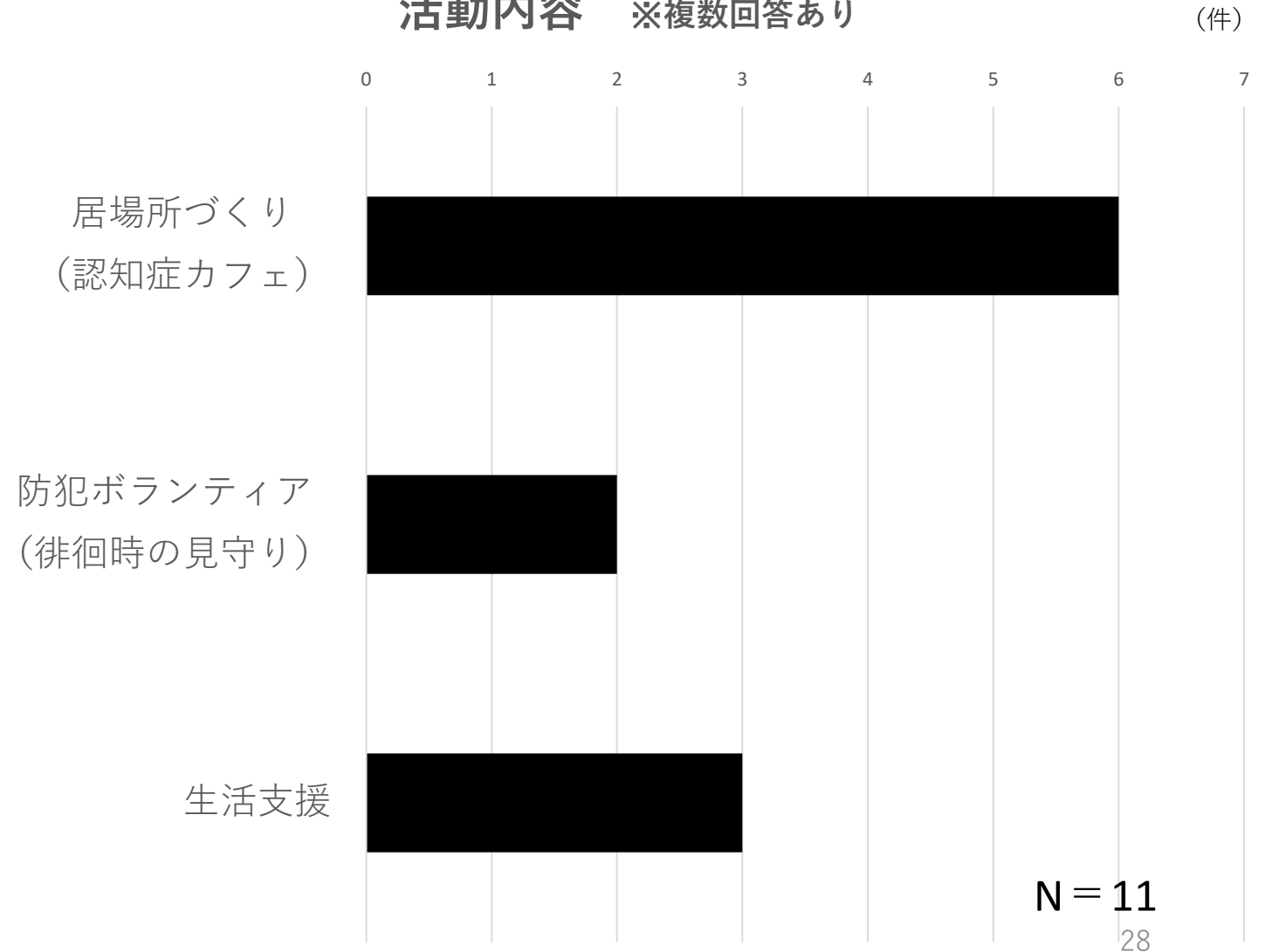


◆認知症サポーターグループ以外の地域住民のサポート活動

サポート活動の有無



活動内容 ※複数回答あり



認知症サポーター養成講座に関する取組状況調査結果

■調査目的

認知症の人と家族を地域で支えていくためのサポート体制の構築がすすめられており、近年、「認知症サポーター養成講座」に積極的に取り組んでいる企業や自治体も多く見られるようになりました。そこで、認知症サポーター養成講座の実施状況等についての現状を把握する。

■調査方法および期間

方法：調査票を郵送配布、郵送にて返信

期間：2019年7月15日～8月15日

■調査対象者

平成28年度～平成30年度に認知症サポーター養成講座を開催した企業・自治体等（研修担当者が回答）

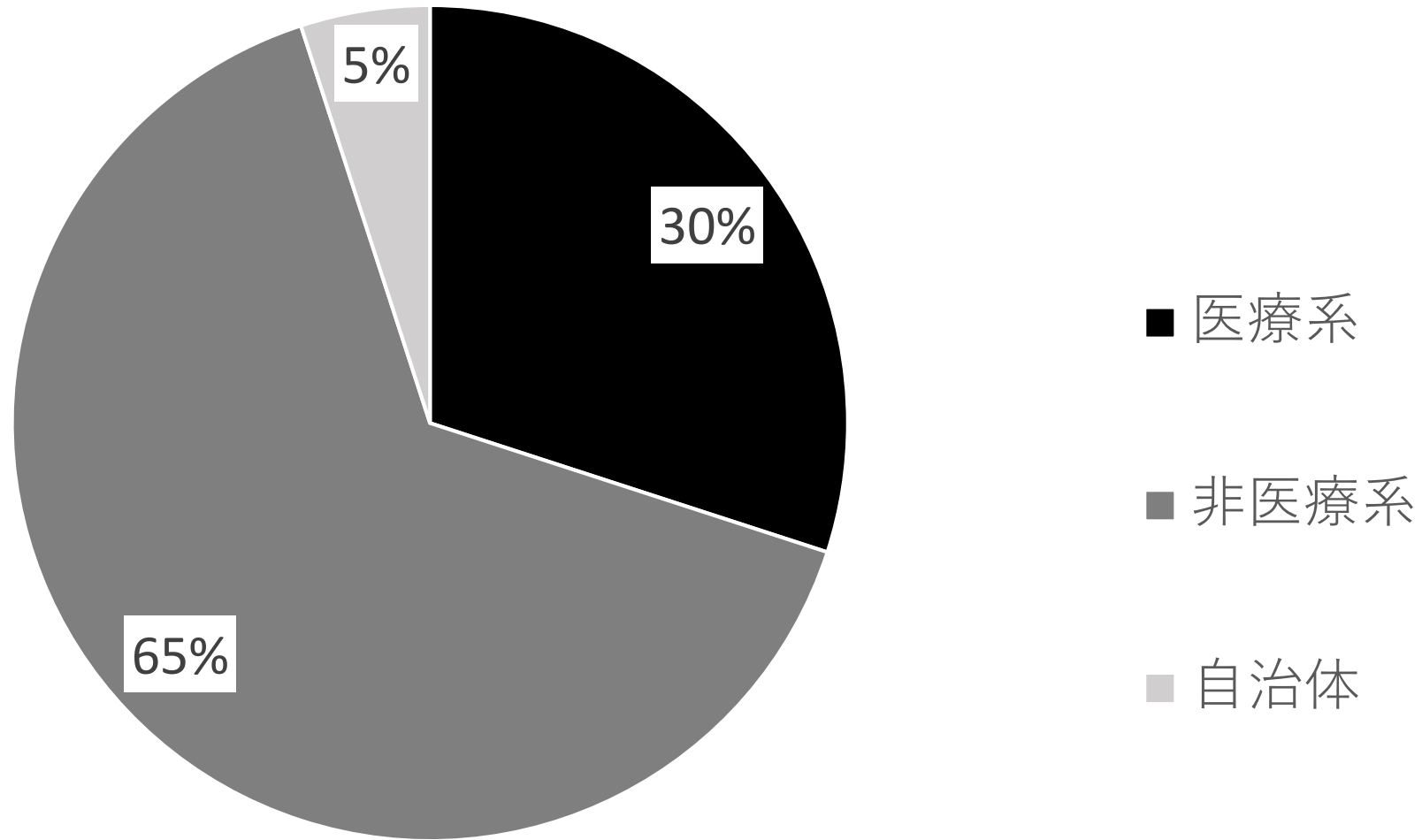
■アンケート結果

アンケート配布数：85

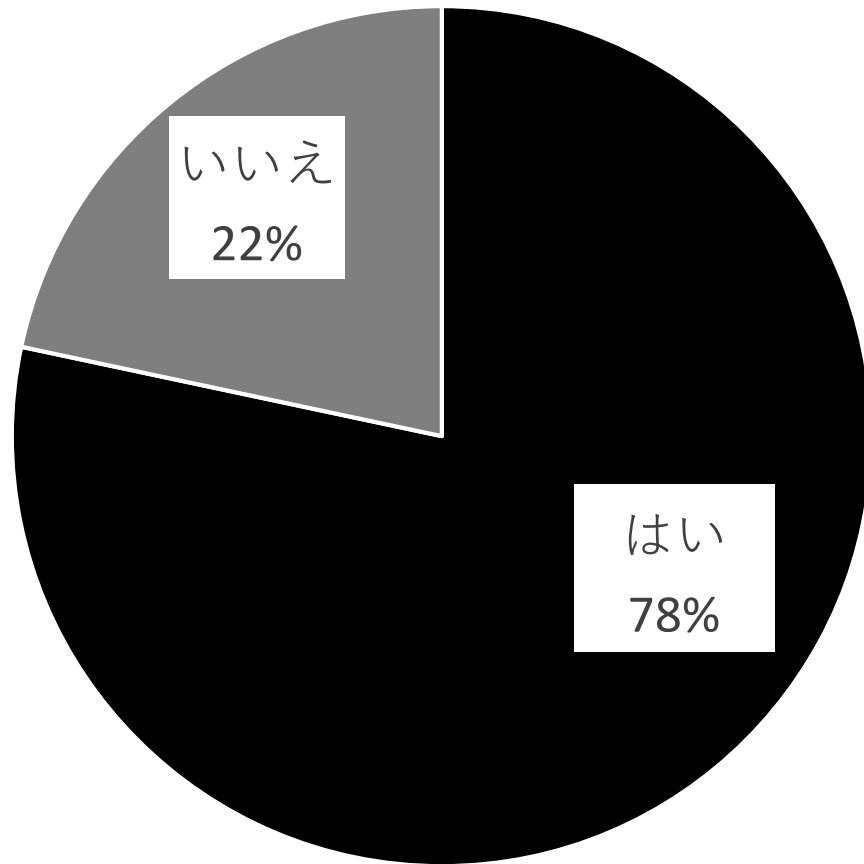
アンケート返信数：60

回収率：70.6%

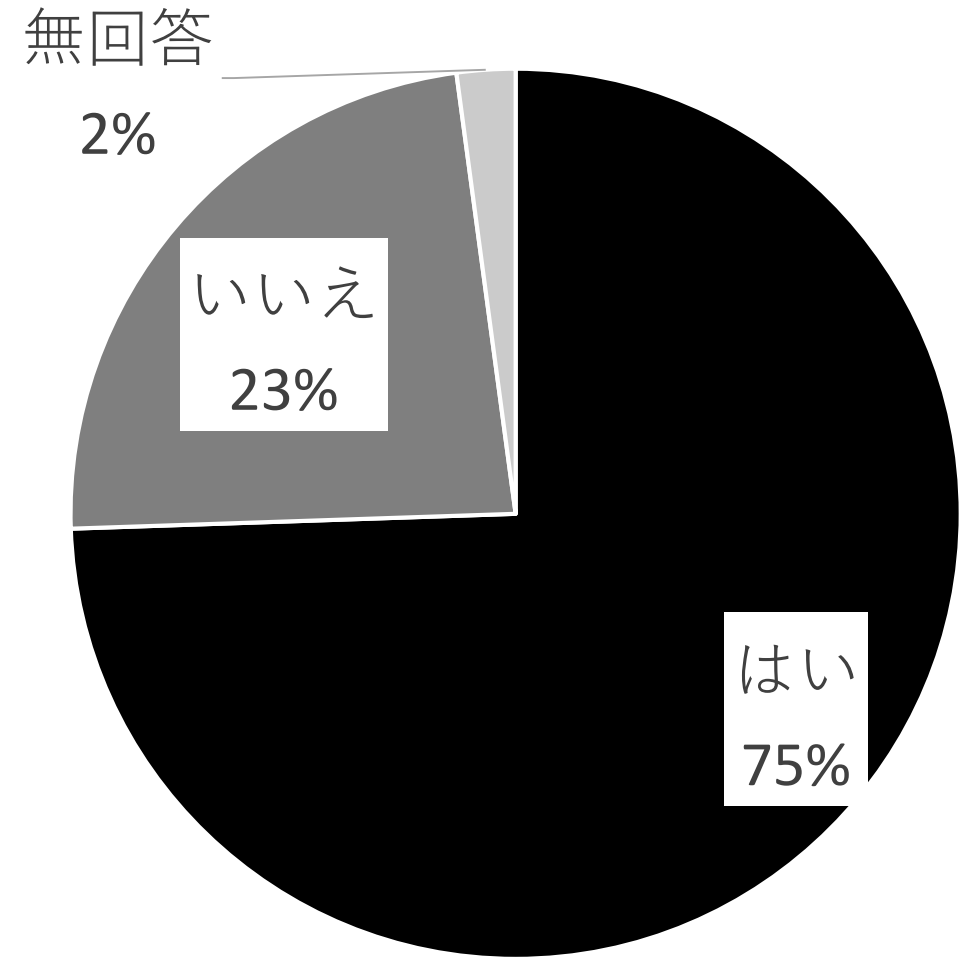
◆回答機関の所属分野 (N=60)



◆業務で認知症の方やその家族の方と関わる機会の有無
(N=60)



◆認知症の方やその家族の対応で困った事例の有無
(N=47)



◆認知症の方や家族の対応で困ったこと

●販売店

- ・注文を忘れる
- ・代金支払いでトラブル
- ・定期購入商品の消費が滞っている
- ・意思疎通が難しく、会話にならない

●金融機関

- ・通帳、証書の紛失
- ・窓口対応での、詐欺の可能性の判断
- ・出来事を忘れてクレームになる

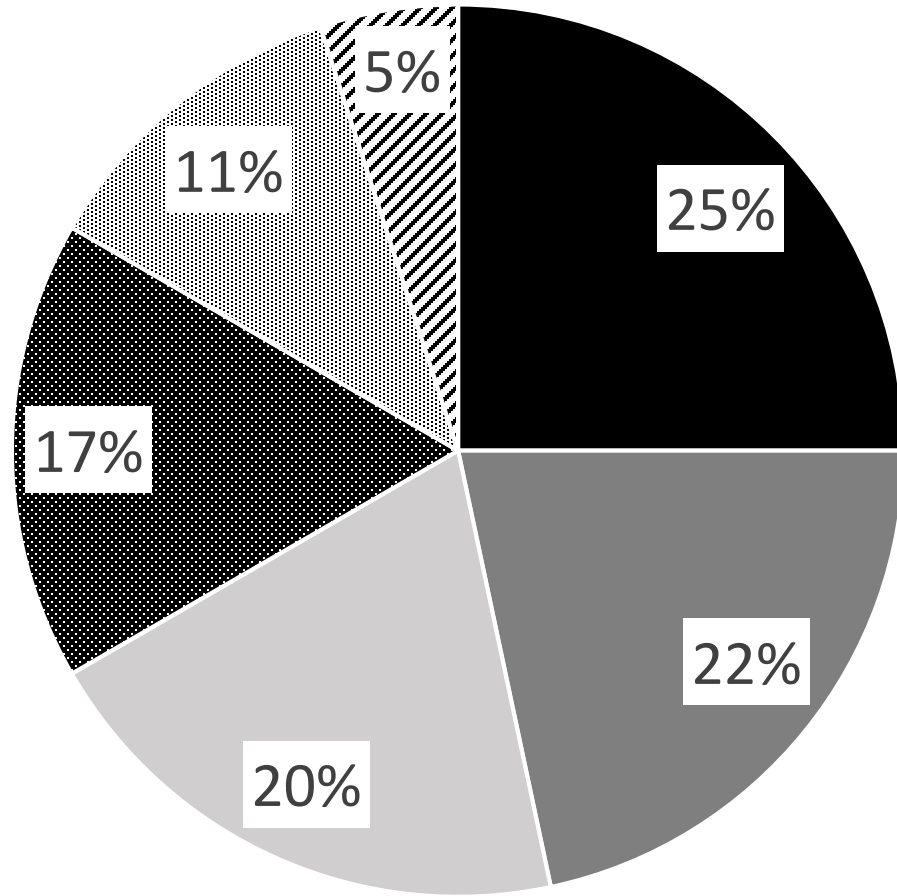
●医療関係機関

- ・服薬管理ができていない
- ・治療の内容が伝わらない
- ・義歯をたびたび紛失する

●その他

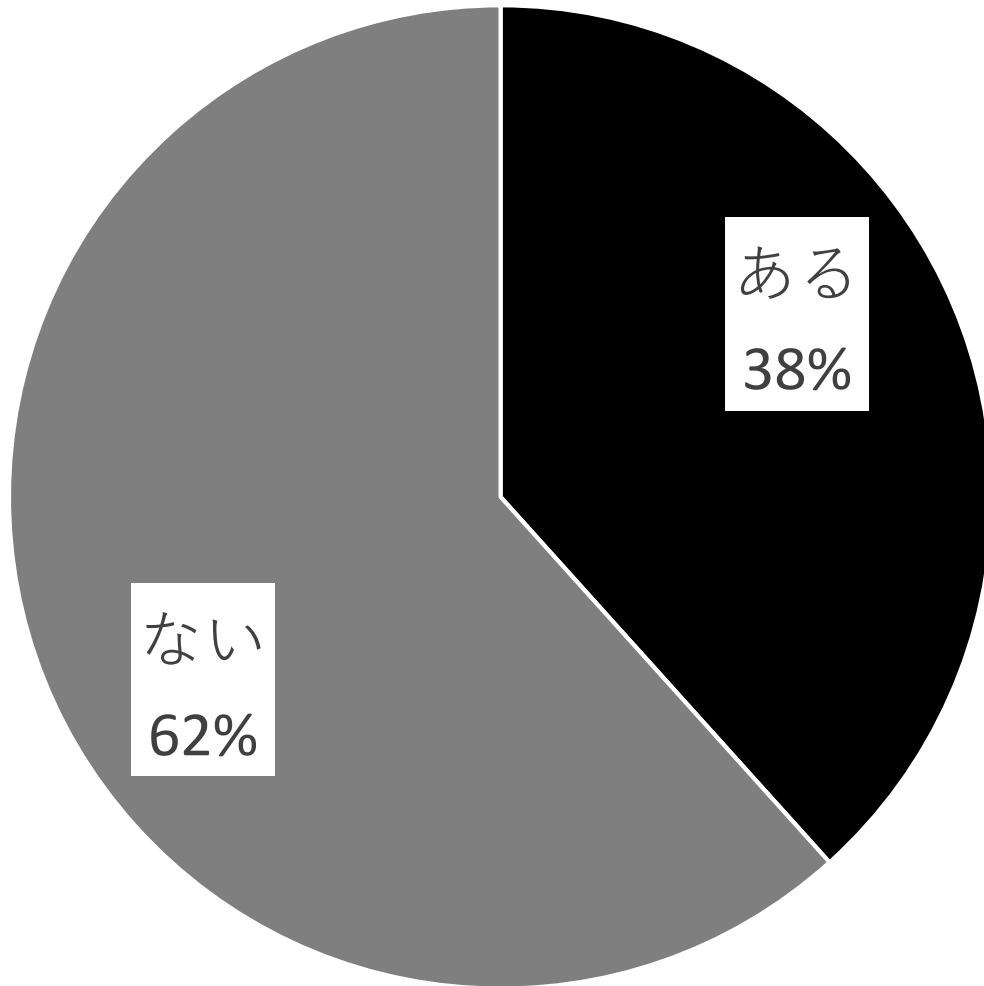
- ・自宅に訪問すると、物とられ妄想がある

◆講座開催・受講の理由（N=60）



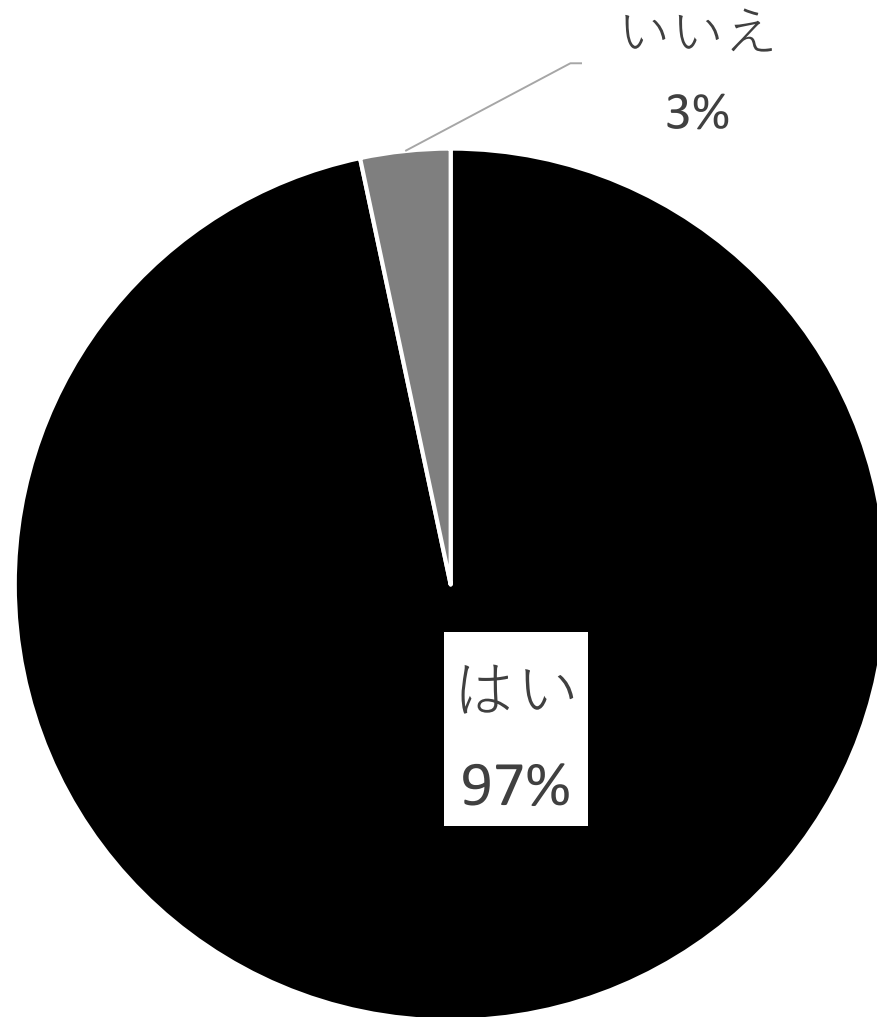
- 業務で認知症の方と接する機会があるから
- スタッフの資質向上のため
- 社内研修カリキュラムに組み込まれている
- 行政からの働きかけ
- 会社の社会貢献の一環として
- 医療・福祉専門機関からの働きかけ

◆認知症サポーター養成講座開催以降の認知症に関する取組 (N=60)



- ・ 「高齢者見守りネットワーク事業協力に関する協定」を締結した。
- ・ 「徘徊SOSネットワーク」の見守り協力機関として登録した。
- ・ 認知症サポーター養成講座を企画した。
- ・ 安否確認ができる体制づくり
- ・ 気になることがあれば、担当ケアマネジャーを把握して連絡を入れる
- ・ 買い物の補助をする体制をとった

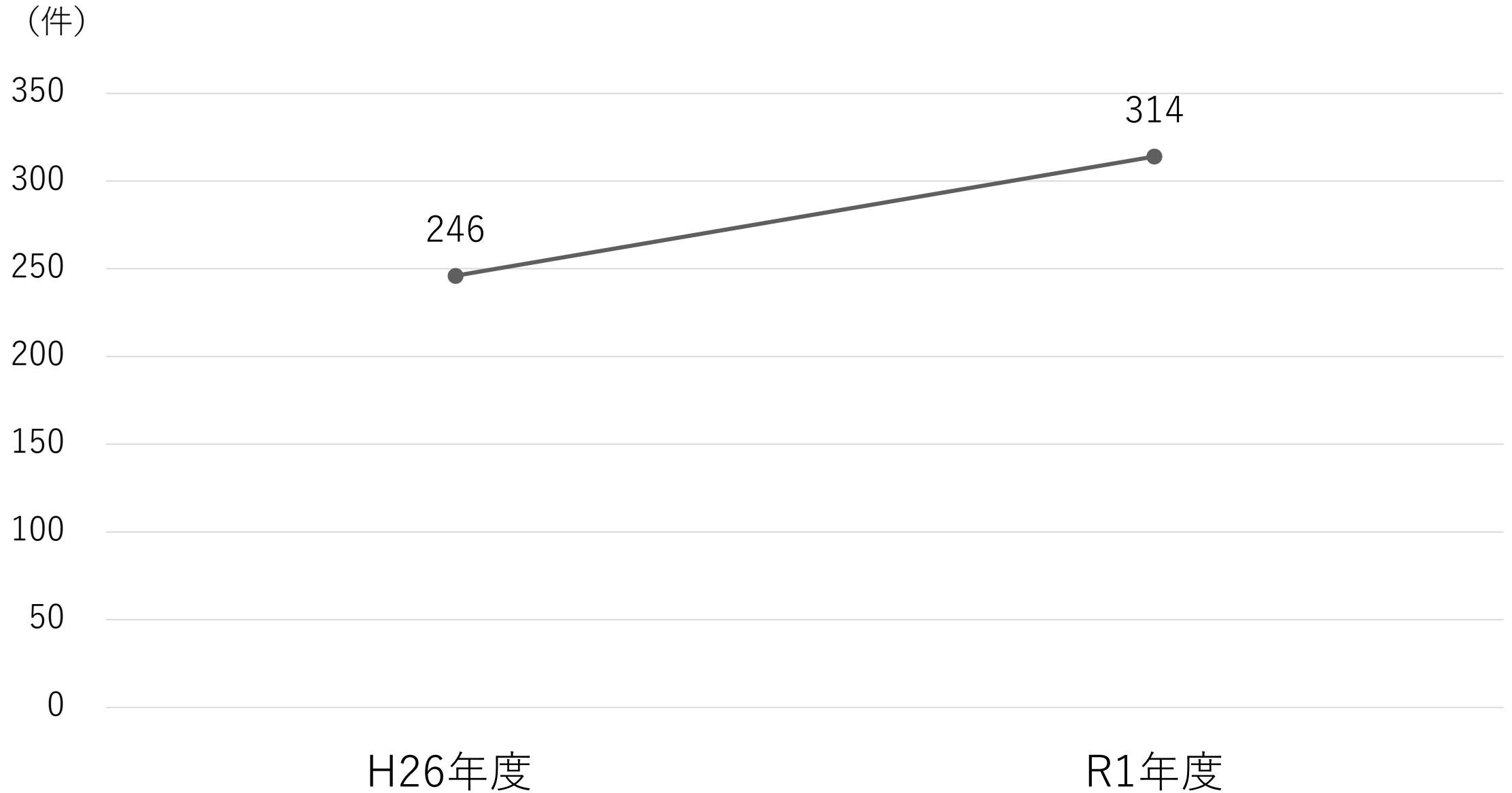
◆養成講座は役に立ちましたか (N=60)



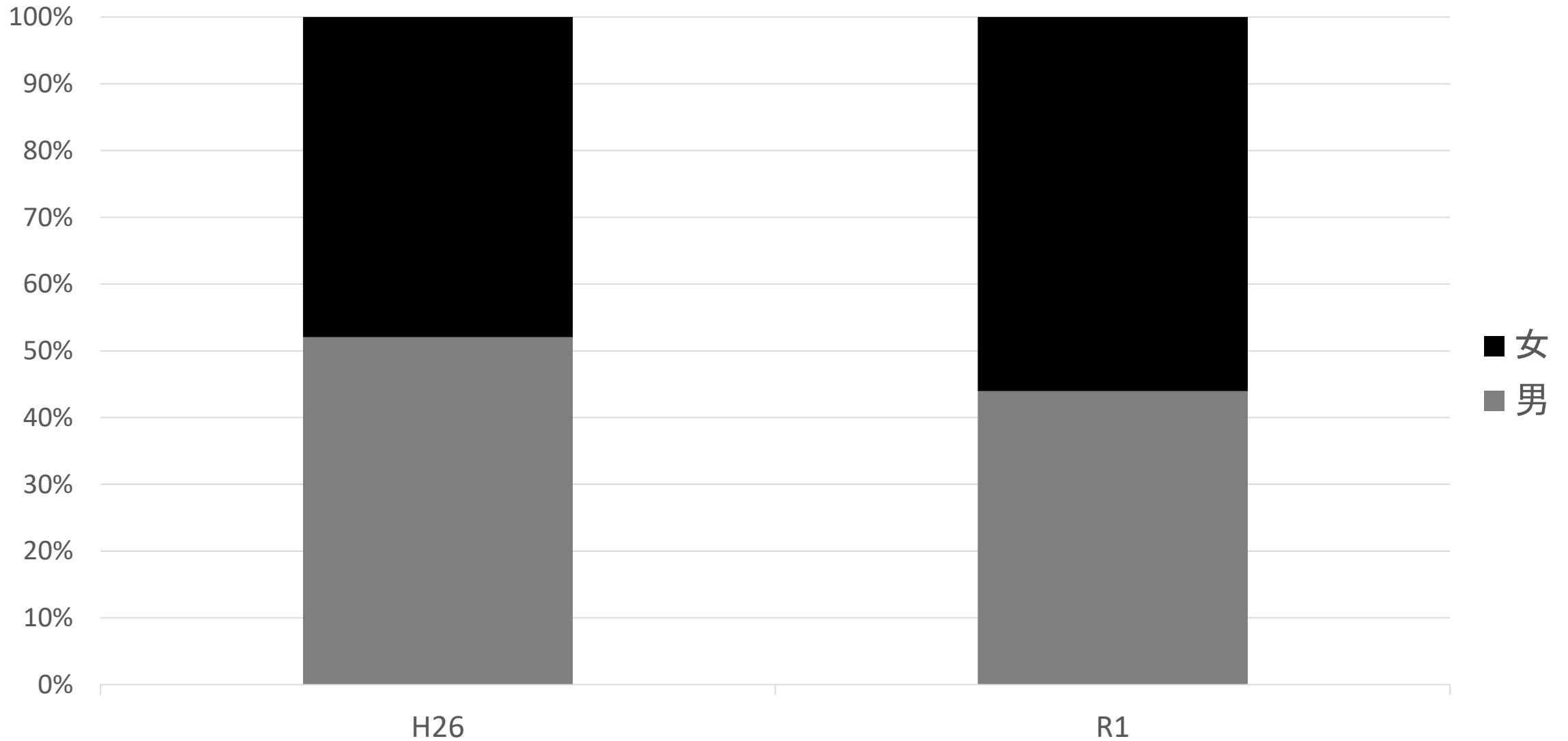
- ・ 認知症への理解が深まった
- ・ 地域の協力なしには認知症の介護は成り立たないと実感した。
- ・ 認知症の理解をしたことで、自分たちの業務にも変化が出てきた。

若年性認知症コーディネーター活動実績

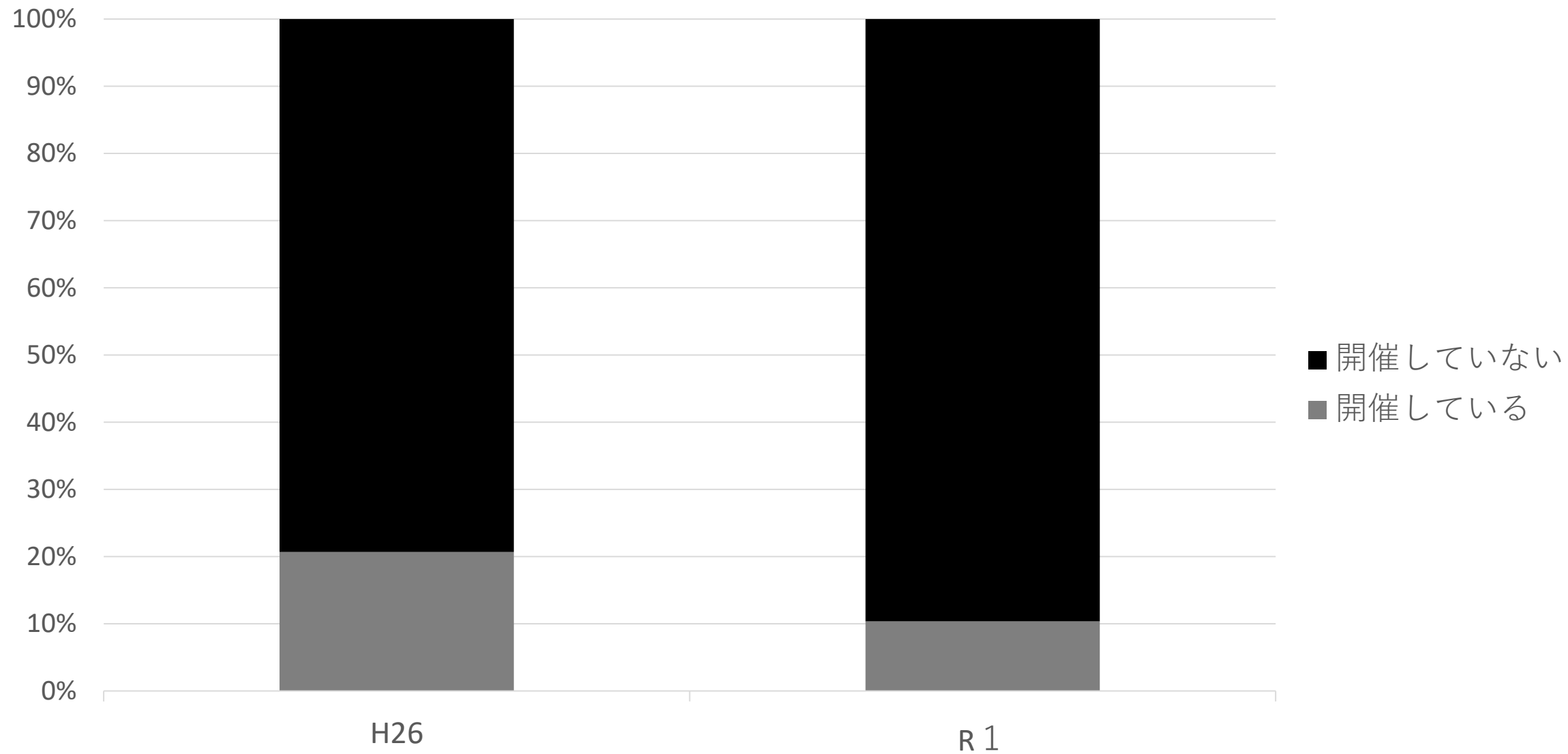
◆若年性認知症患者数



◆若年性認知症患者：性別

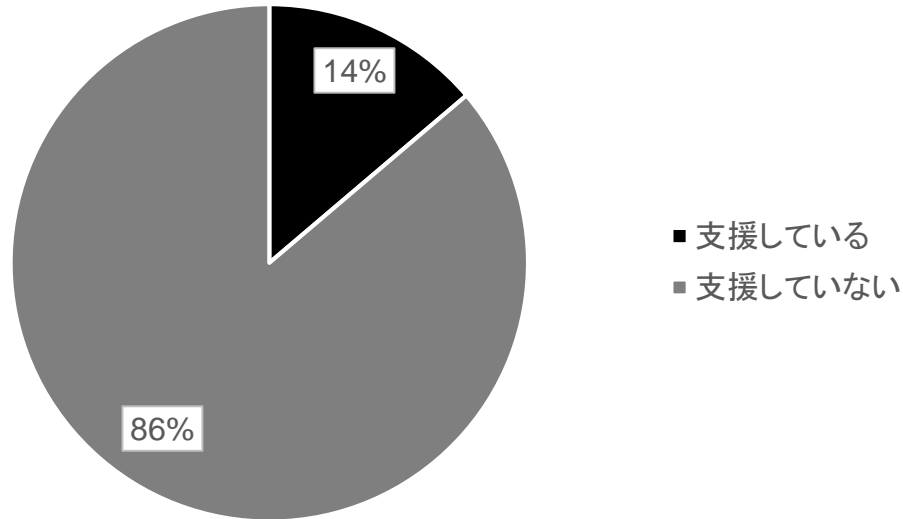


◆若年性認知症カフェ設置状況



◆認知症カフェ以外の若年性認知症支援の状況について

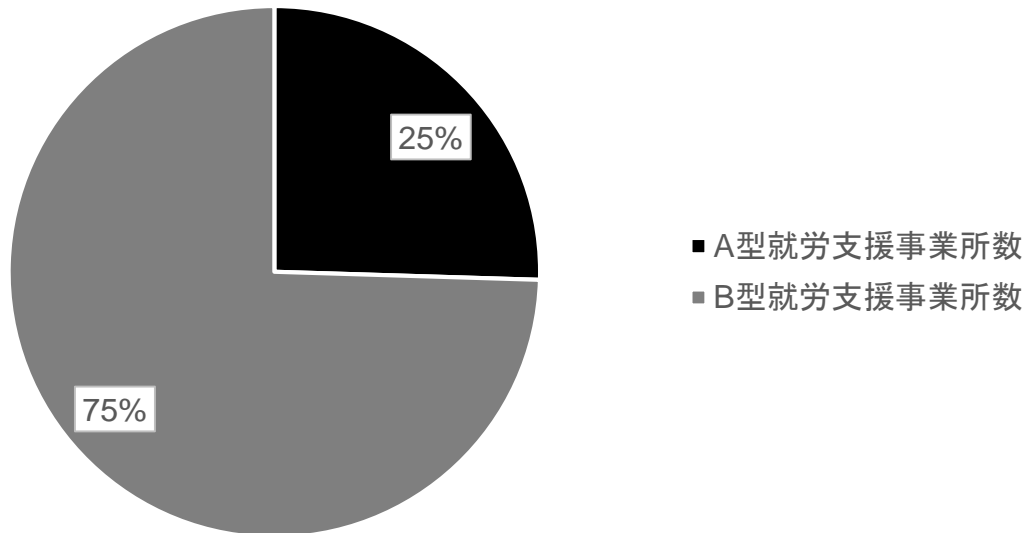
各市町の支援状況 県内29市町 (N=29)



「支援している」と答えた各市町の概要

市町名	記載内容
四日市市	市の事業ではないが、「認知症の人と家族の会」三重県支部が開催する「若年性認知症のつどい」の会場の調整や参加、市広報への掲載等の支援、認知症フレンズの派遣支援を実施。「三重県若年性認知症コーディネーター」主催事業に会場の調整や参加、関係事業所等への啓発、認知症フレンズの派遣支援を実施。
伊勢市	総合相談としての個別相談・支援
桑名市	「わんずほーむ」…若年性認知症の本人が集い、物づくり・畑作業等に取り組む。（市内の小規模多機能主催の事業）
大紀町	研修会（講演会の実施）「若年性認知症支援から高齢者支援を考える」～支援者が知っておくべき社会保障制度の基礎を学ぶ～

障がい福祉サービス事業のうち、三重県の就労支援事業所の設置状況
(令和元年9月1日現在数 N (A型+B型) = 310)

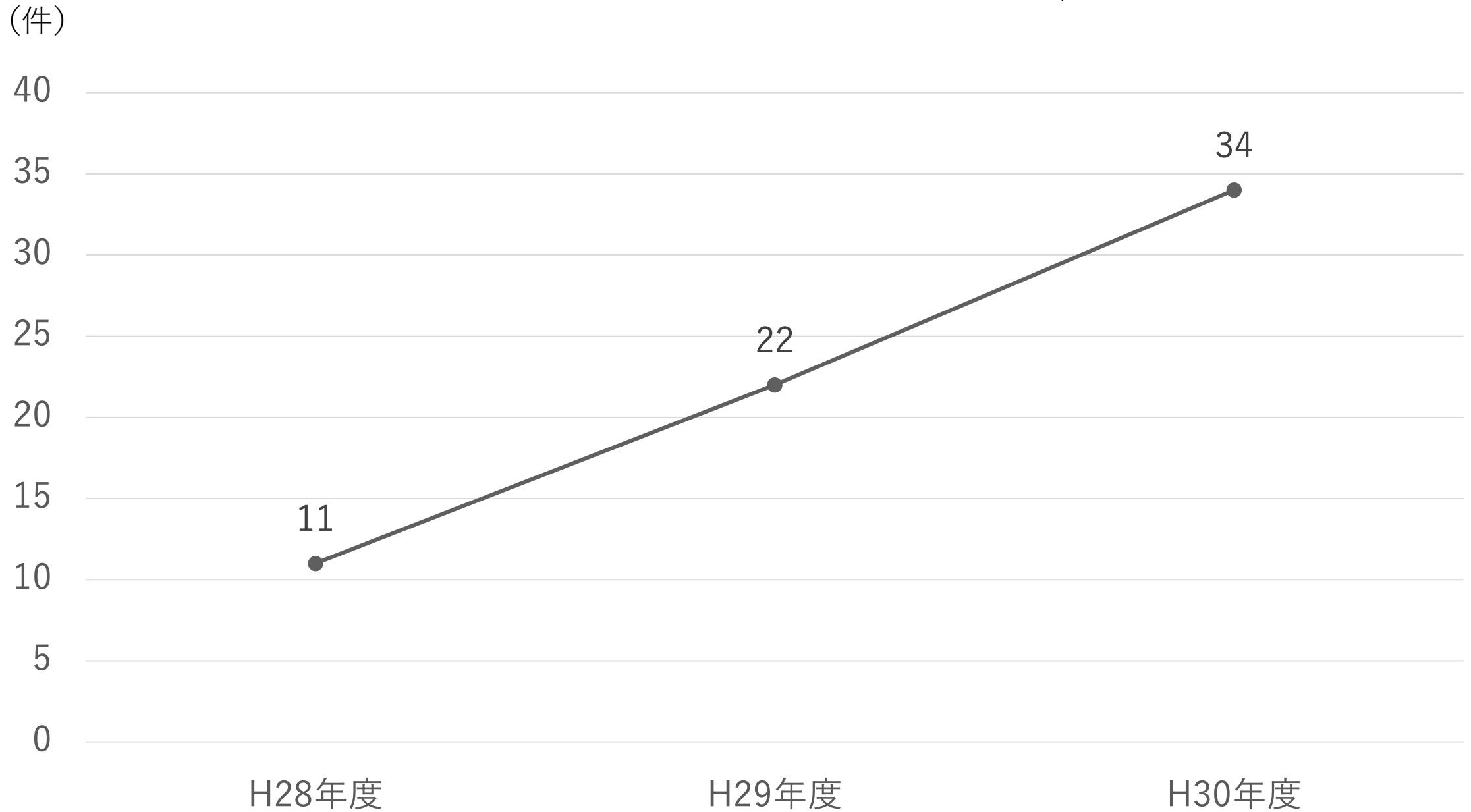


(参考) A型とB型の違い

A型就労支援事業とは、一般企業等での就労が困難な人に、雇用して就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために必要な訓練その他必要な支援を行う事業のこと（雇用契約あり）。

B型就労支援事業とは、一般企業等での就労が困難な人に、就労する機会を提供するとともに、能力等の向上のために訓練その他必要な支援を行う事業のこと（雇用契約なし）。

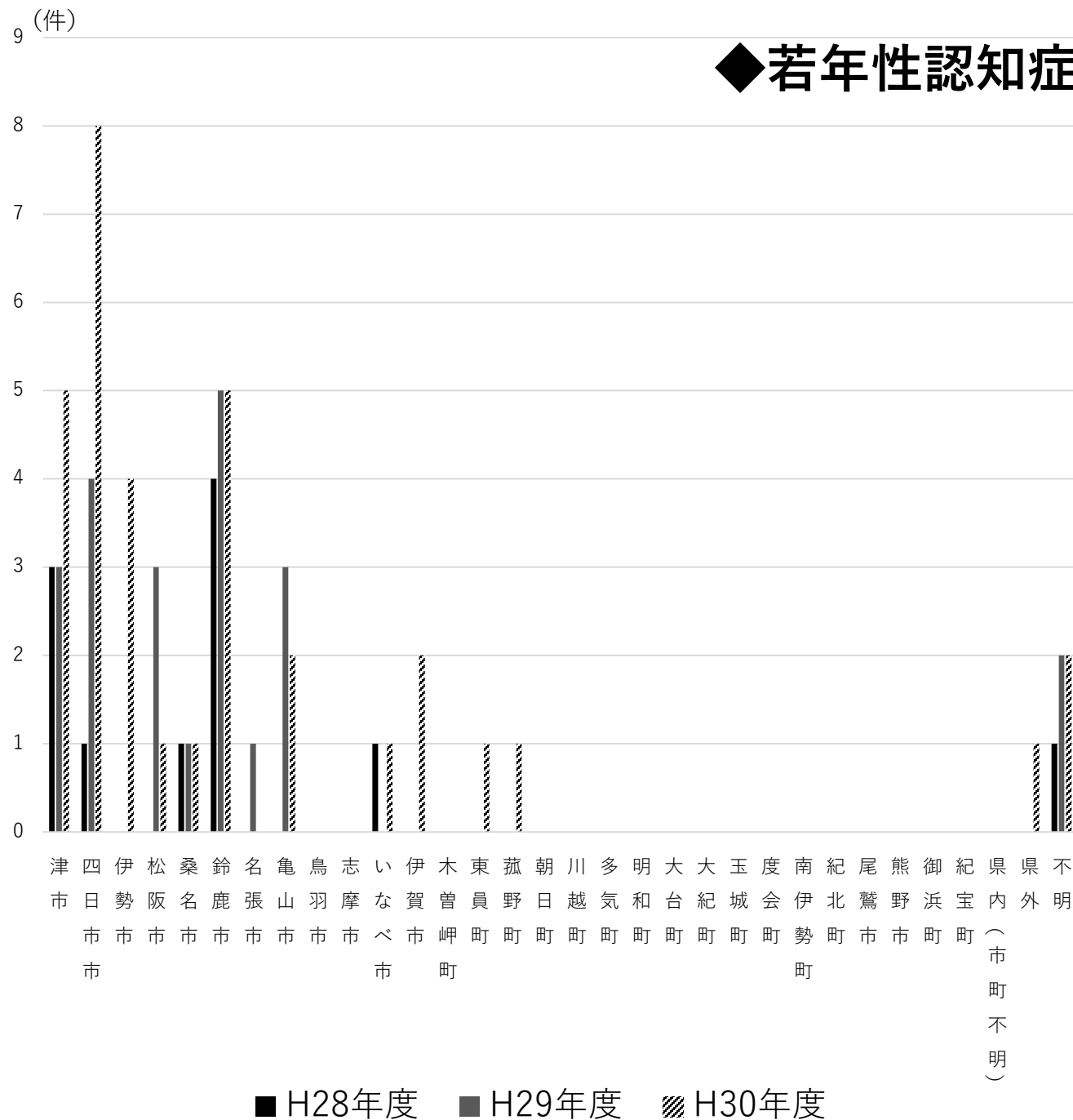
◆若年性認知症相談：件数



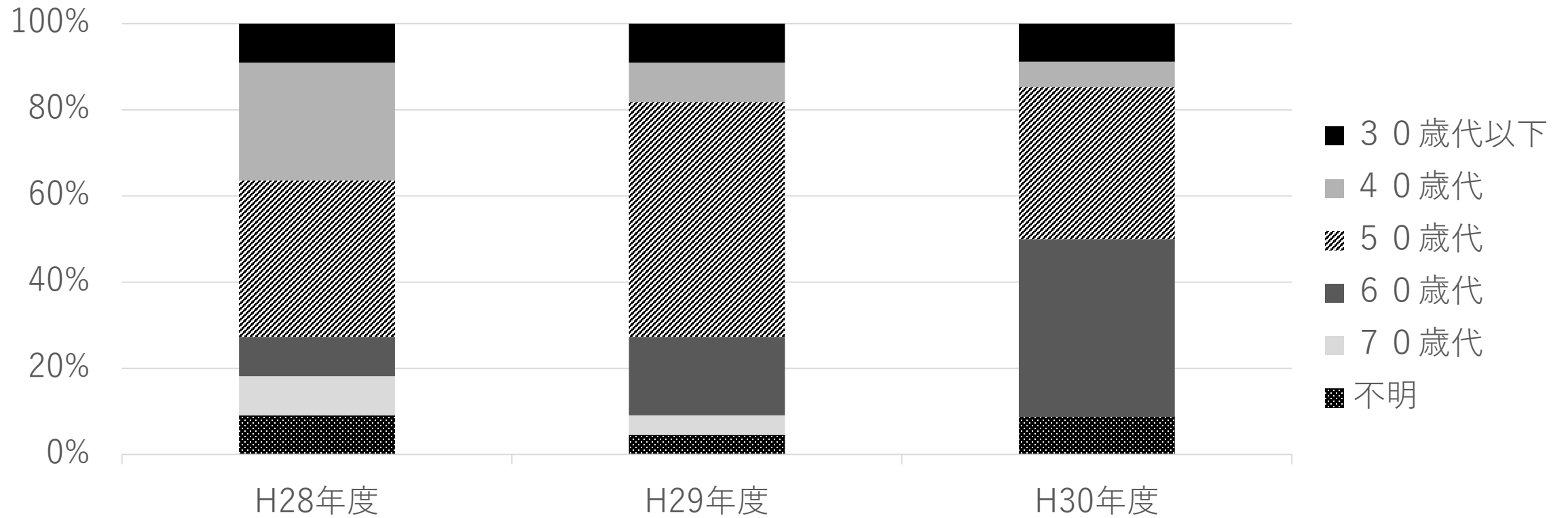
◆若年性認知症相談：市町別件数

地域別

津市	3	3	5
四日市市	1	4	8
伊勢市			4
松阪市		3	1
桑名市	1	1	1
鈴鹿市	4	5	5
名張市		1	
亀山市		3	2
鳥羽市			
志摩市			
いなべ市	1		1
伊賀市			2
木曾岬町			
東員町			1
菰野町			1
朝日町			
川越町			
多気町			
明和町			
大台町			
大紀町			
玉城町			
度会町			
南伊勢町			
紀北町			
尾鷲市			
熊野市			
御浜町			
紀宝町			
県内 (市町不明)			
県外			1
不明	1	2	2
計	11	22	34

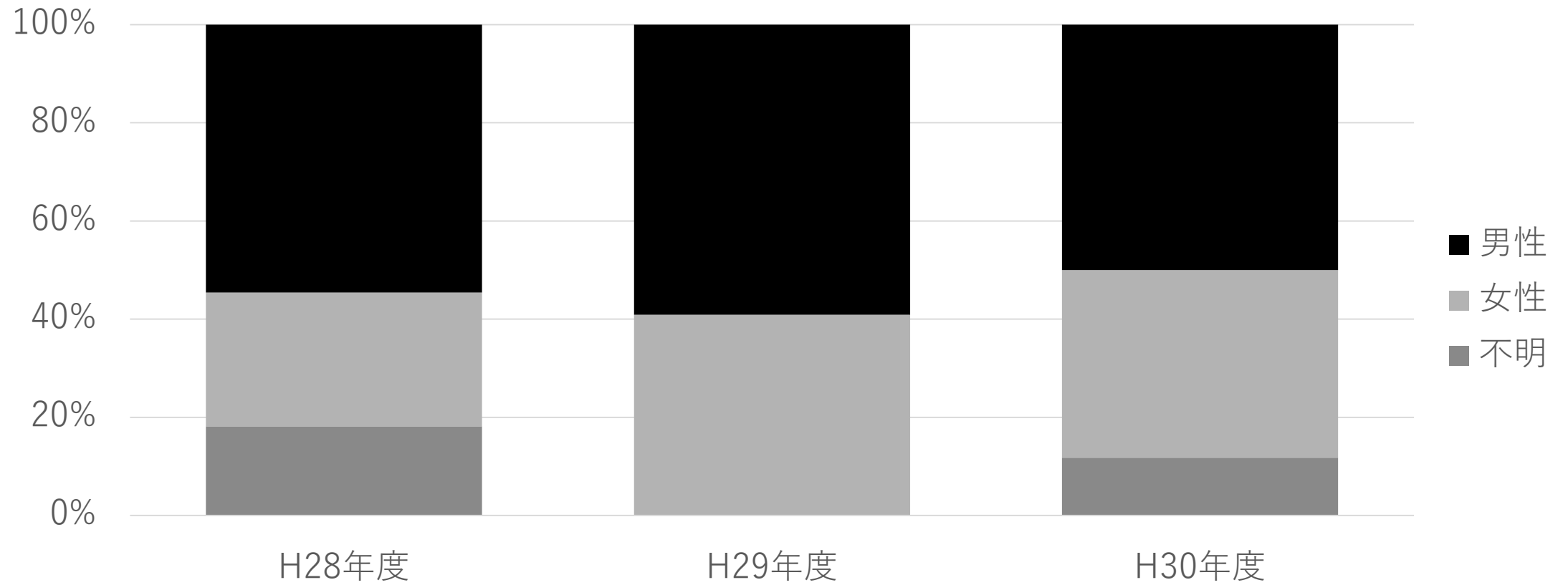


◆若年性認知症相談：相談者の年代



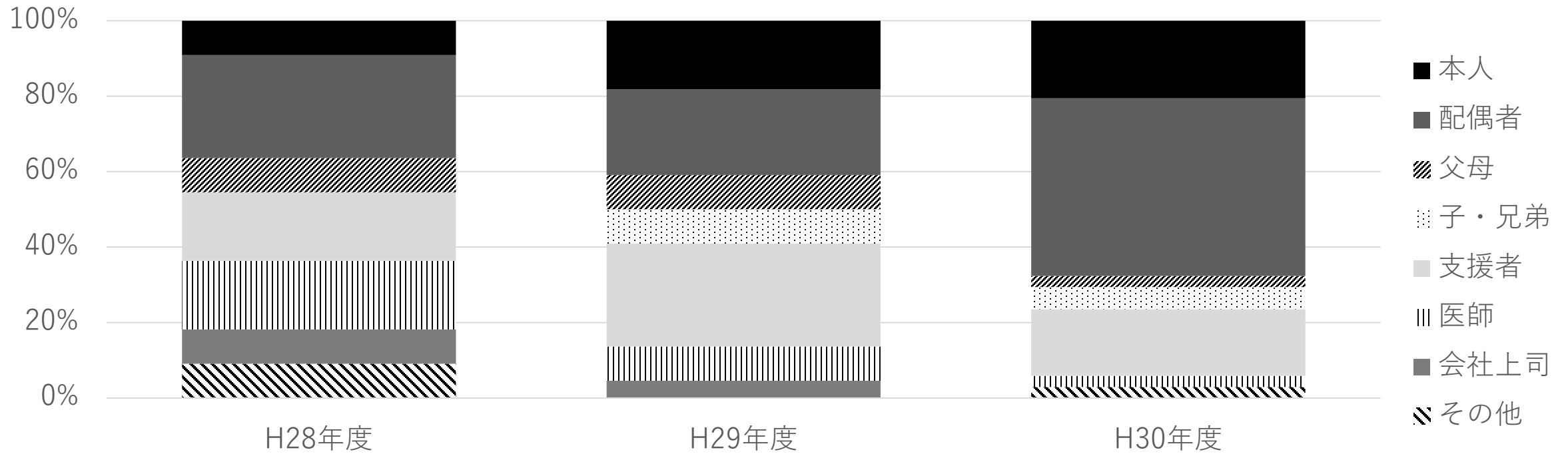
		H28年度	H29年度	H30年度
年代別 (件)	30歳代以下	1	2	3
	40歳代	3	2	2
	50歳代	4	12	12
	60歳代	1	4	14
	70歳代	1	1	0
	不明	1	1	3
	計	11	22	34

◆若年性認知症相談：相談者の性別



性別 (件)		H28年度	H29年度	H30年度
	男性		6	13
女性		3	9	13
不明		2	0	4
計		11	22	34

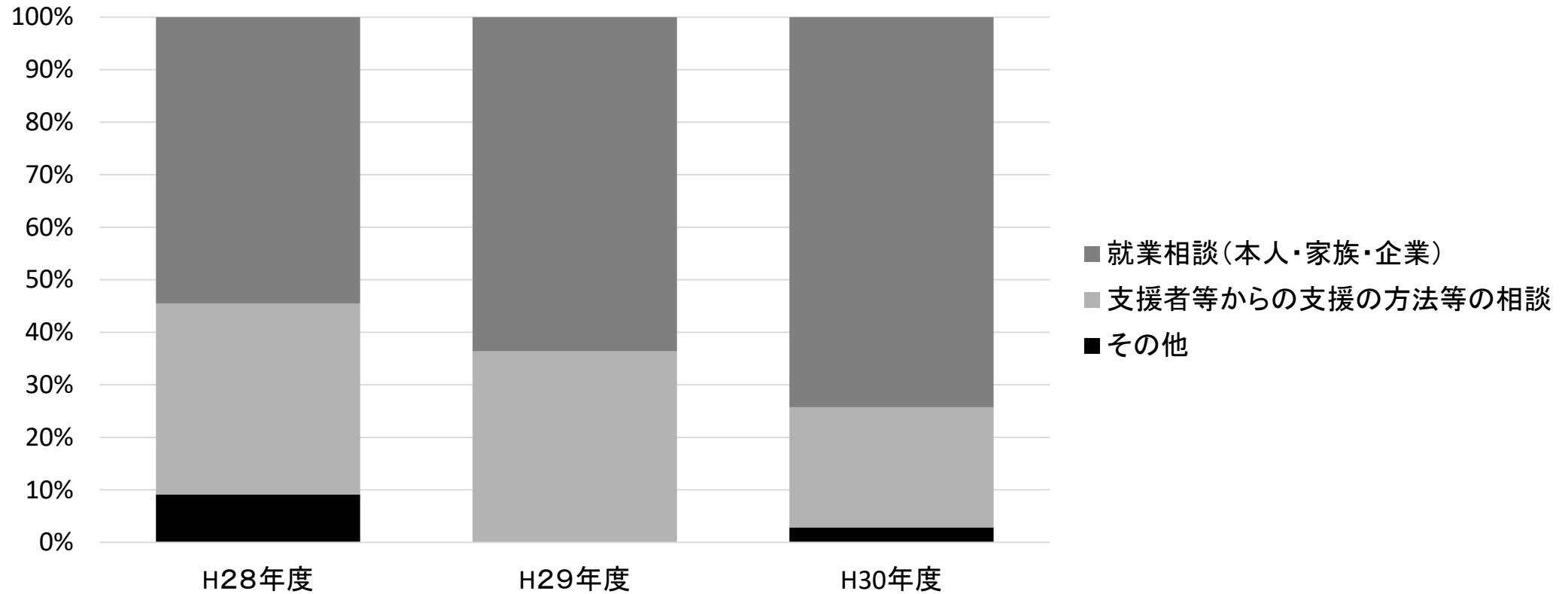
◆若年性認知症相談：相談者の続柄



※ 支援者からの相談含む (件)		H28年度	H29年度	H30年度
	本人	1	4	7
	配偶者	3	5	16
	父母	1	2	1
	子・兄弟	0	2	2
	支援者	2	6	6
	医師	2	2	1
	会社上司	1	1	0
	その他	1	0	1
	計	11	22	34

◆若年性認知症コーディネータが対応した相談内容

※複数回答あり



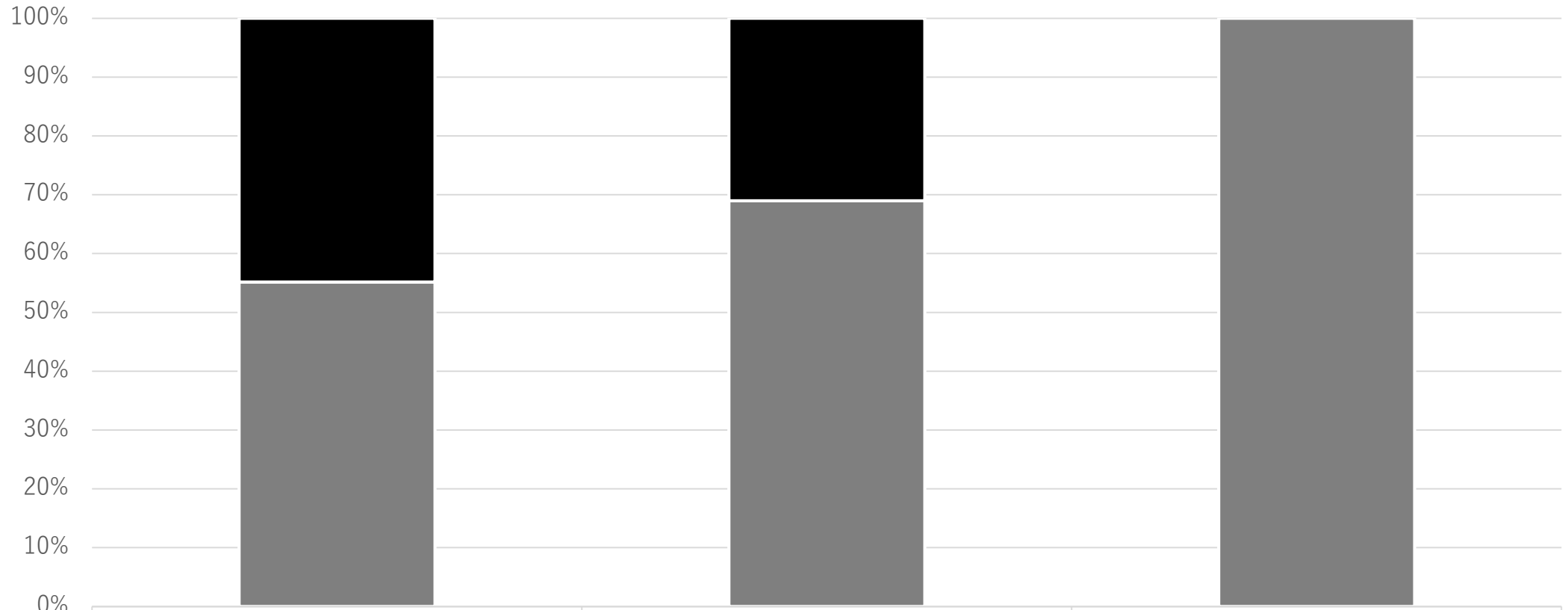
		H28年度	H29年度	H30年度
※複数回答あり 相談内容(件)	就業相談等 (本人・家族・企業)	6	14	26
	支援者等からの 支援の方法等の相談	4	8	7
	c)その他	1	0	1
	計	11	22	34

◆若年性認知症コーディネーターの支援状況（平成30年度）

- ①意見交換会・カフェの開催支援（1回/年）
 - （ア）若年性認知症意見交換会開催のための連絡調整・参加
 - （イ）若年性認知症カフェ開催のための連絡調整・参加
- ②若年性認知症自立支援ネットワーク会議の開催（2回/年）
- ③若年性認知症支援者研修会の開催（1回/年）
- ④企業担当者研修会の開催（1回/年）
- ⑤若年性認知症本人の会「レイの会」運営支援（継続支援）

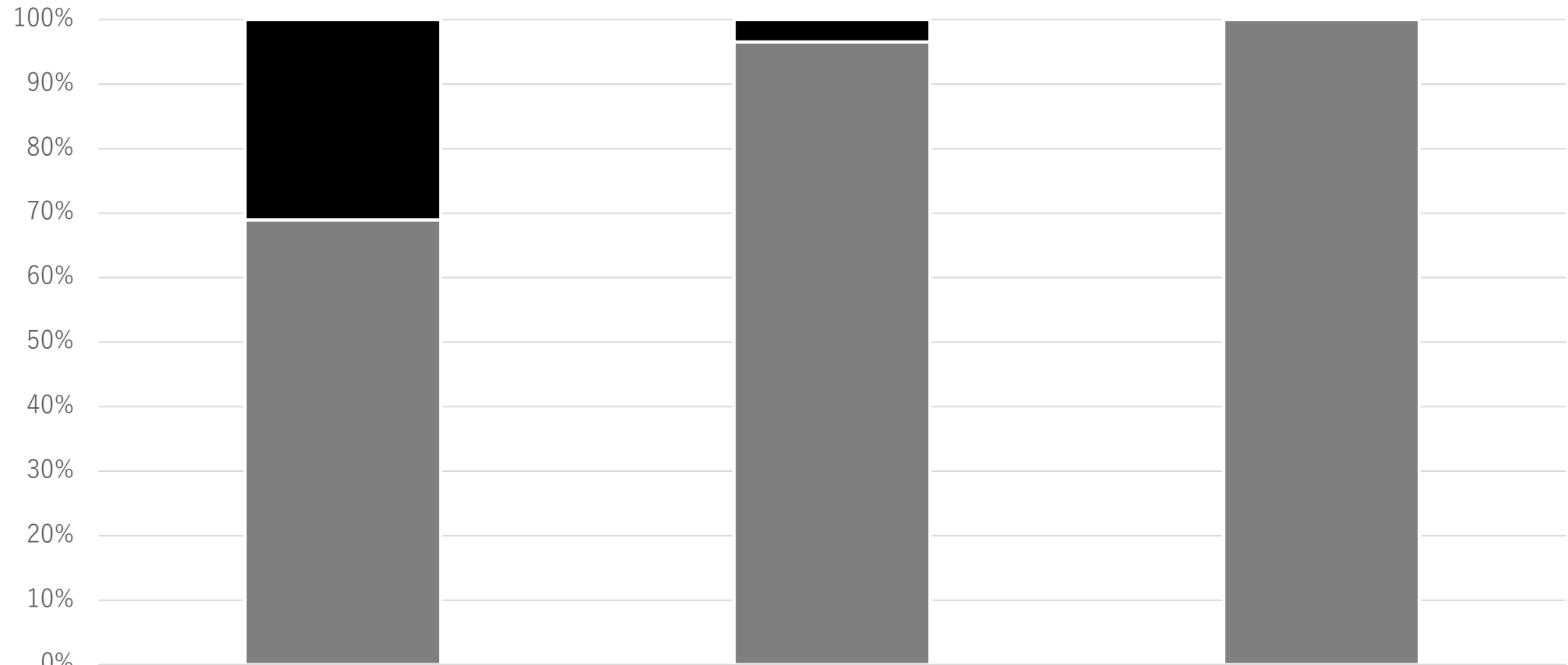
(その他) 三重県内の取組み状況

◆生活支援体制整備事業の協議体の有無（N=29）



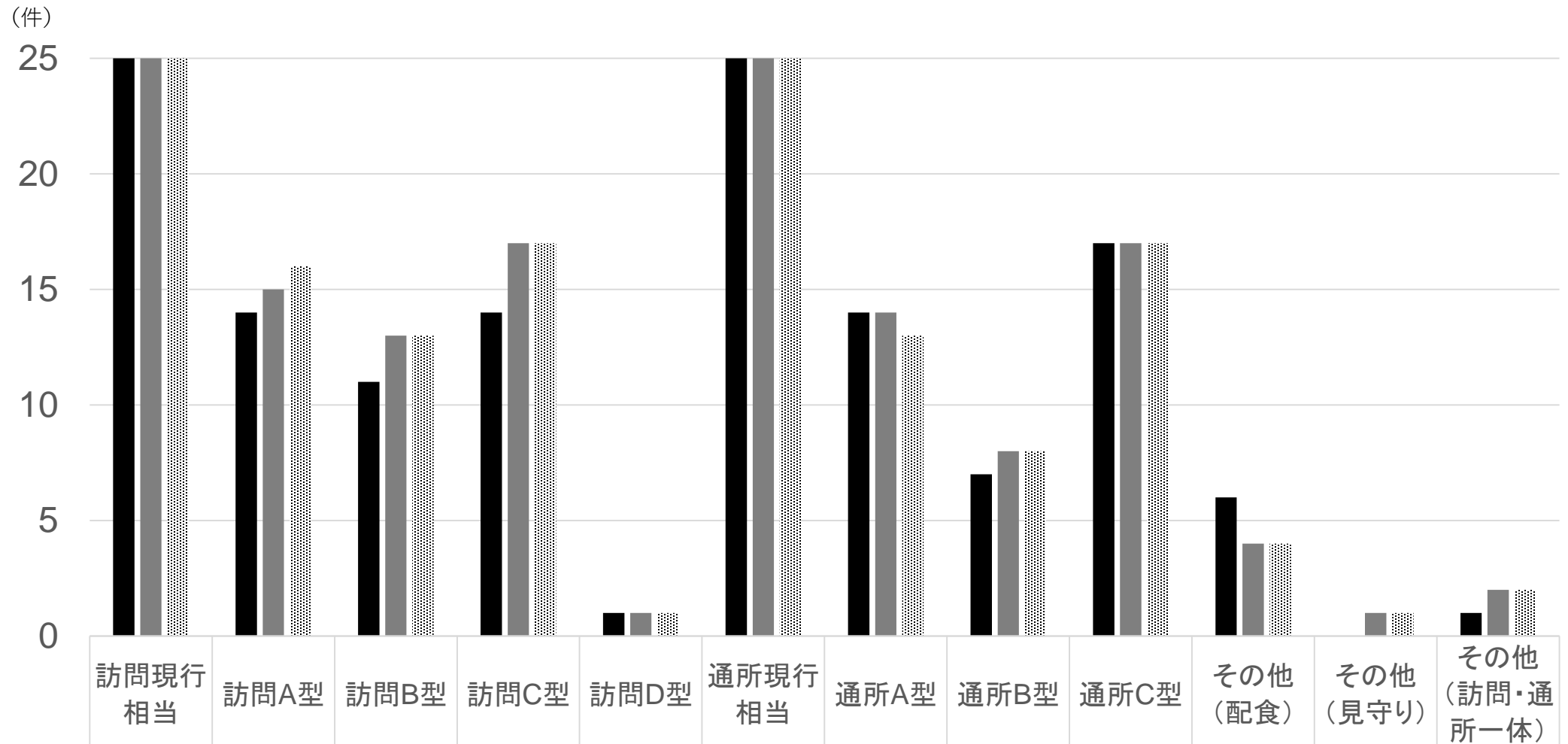
	平成29年10月	平成30年5月	令和元年5月
■ 協議体なし	13	9	0
■ 協議体あり	16	20	29

◆生活支援コーディネーターの設置状況（N=29）



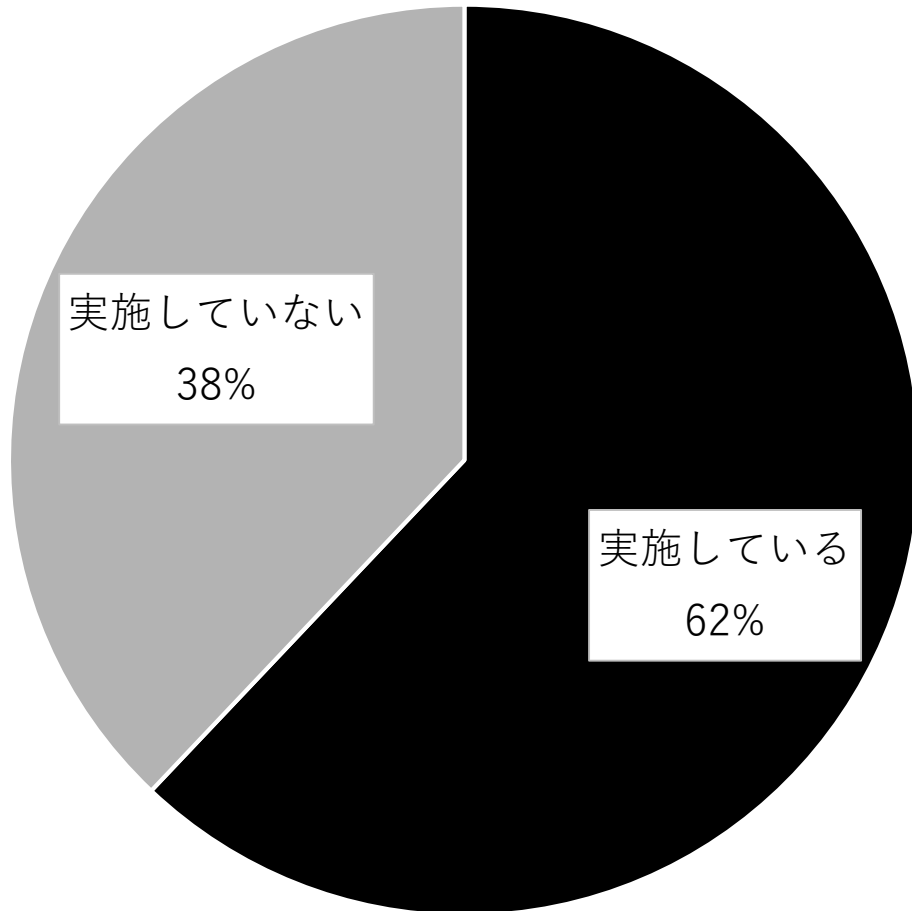
■ 設置なし	9	1	0
■ 設置あり	20	28	29

◆総合事業の実施状況 (N=25)



	訪問現行相当	訪問A型	訪問B型	訪問C型	訪問D型	通所現行相当	通所A型	通所B型	通所C型	その他(配食)	その他(見守り)	その他(訪問・通所一体)
■平成29年10月	25	14	11	14	1	25	14	7	17	6	0	1
■平成30年5月	25	15	13	17	1	25	14	8	17	4	1	2
■令和元年5月	25	16	13	17	1	25	13	8	17	4	1	2

◆高齢者に運転免許返納を勧めるための取組の実施 (N=29)

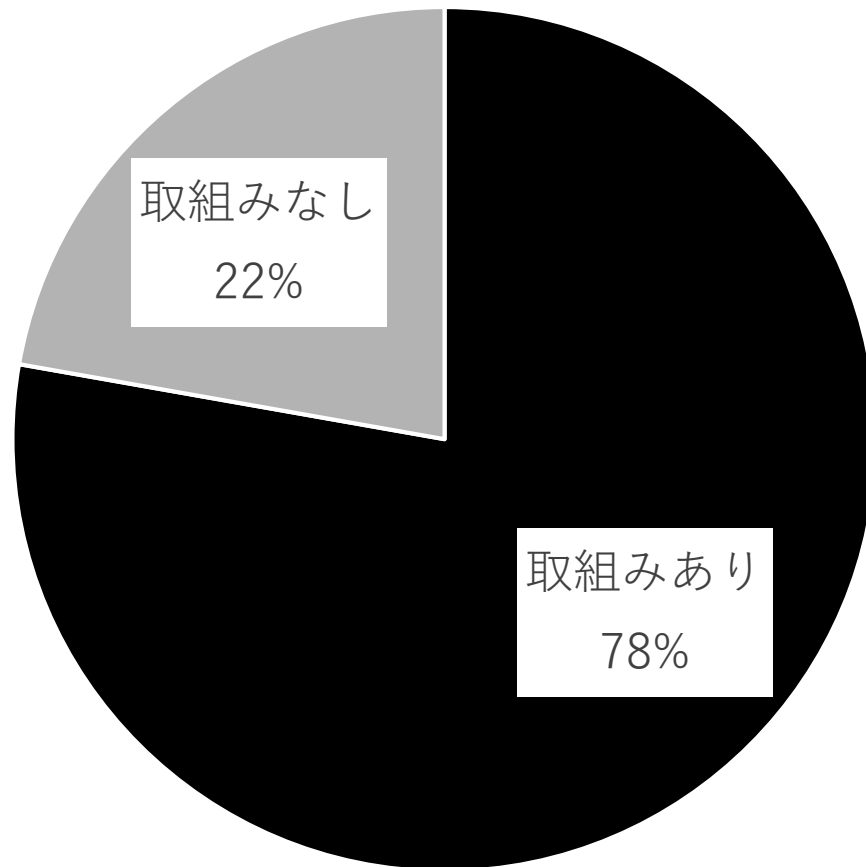


<実施している>と答えた市町の取組内容

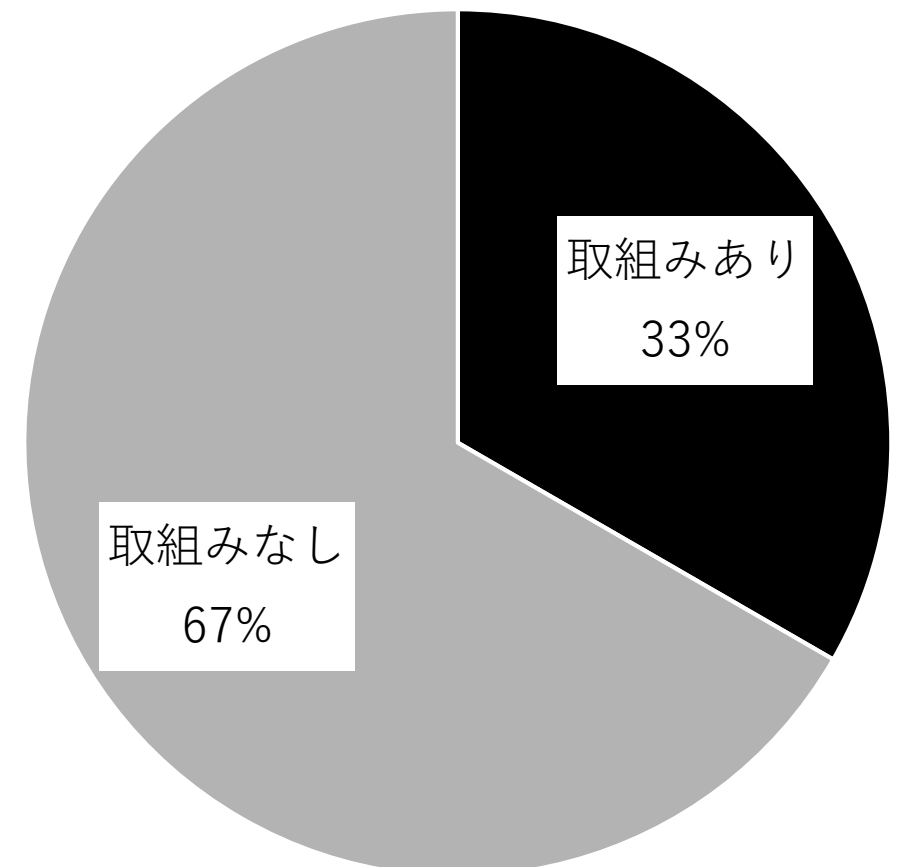
- ・オンデマンドバスの運行、運転経歴証明書所持者に対する割引等の取組
- ・ポイント制や有償ボランティアによる買い物や通院支援等の取組
- ・ライドシェア、配食サービス等の取組
- ・その他

◆取り組み内容（N=18）

オンデマンドバス運行や
運転経歴証明書所持者に対する割引等の取組の有無

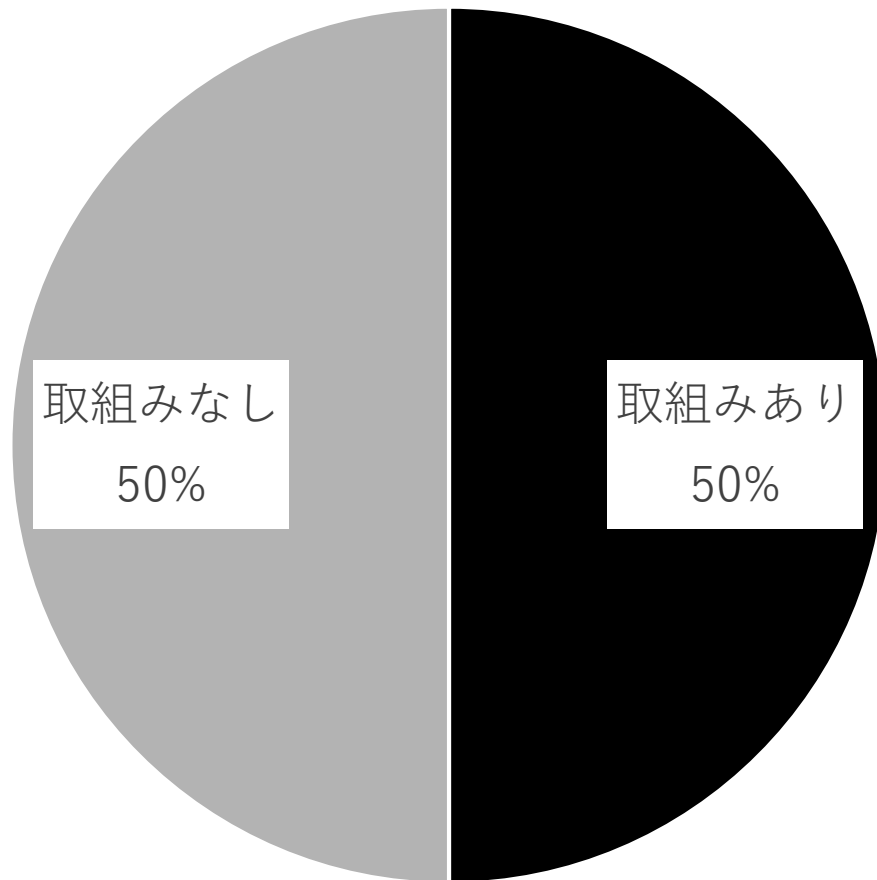


ポイント制や有償ボランティアによる買い物や
通院支援等の取組

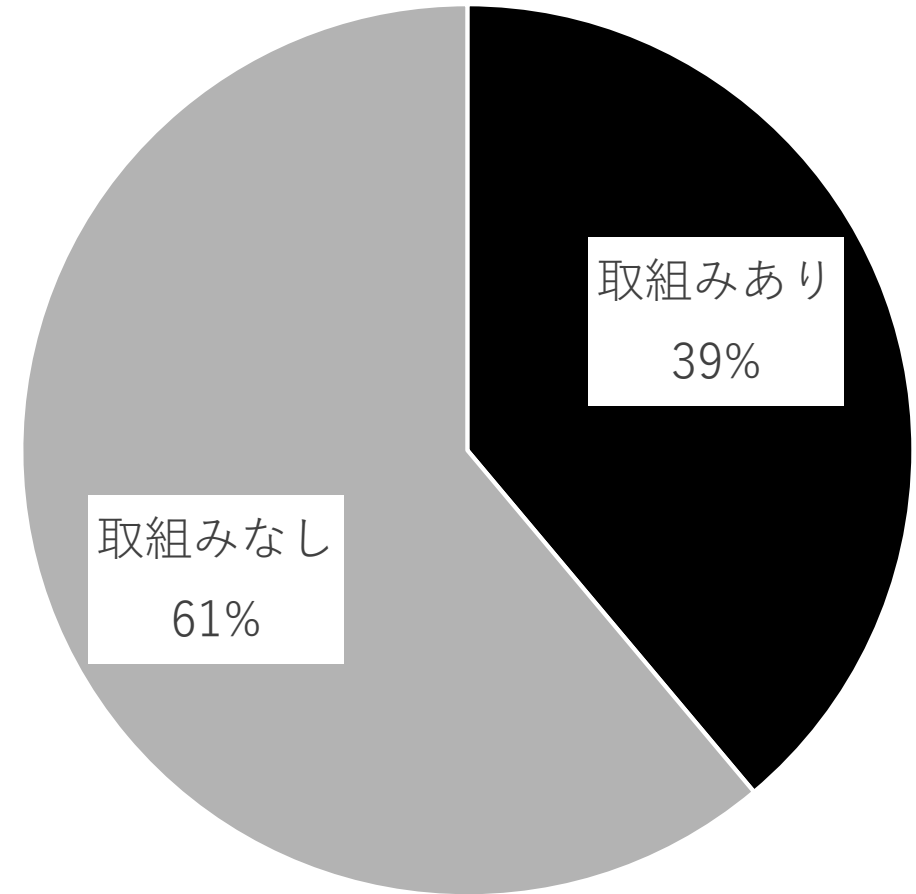


◆取り組み内容 (N=18)

行政が関与するライドシェア、
配食サービス等の取組

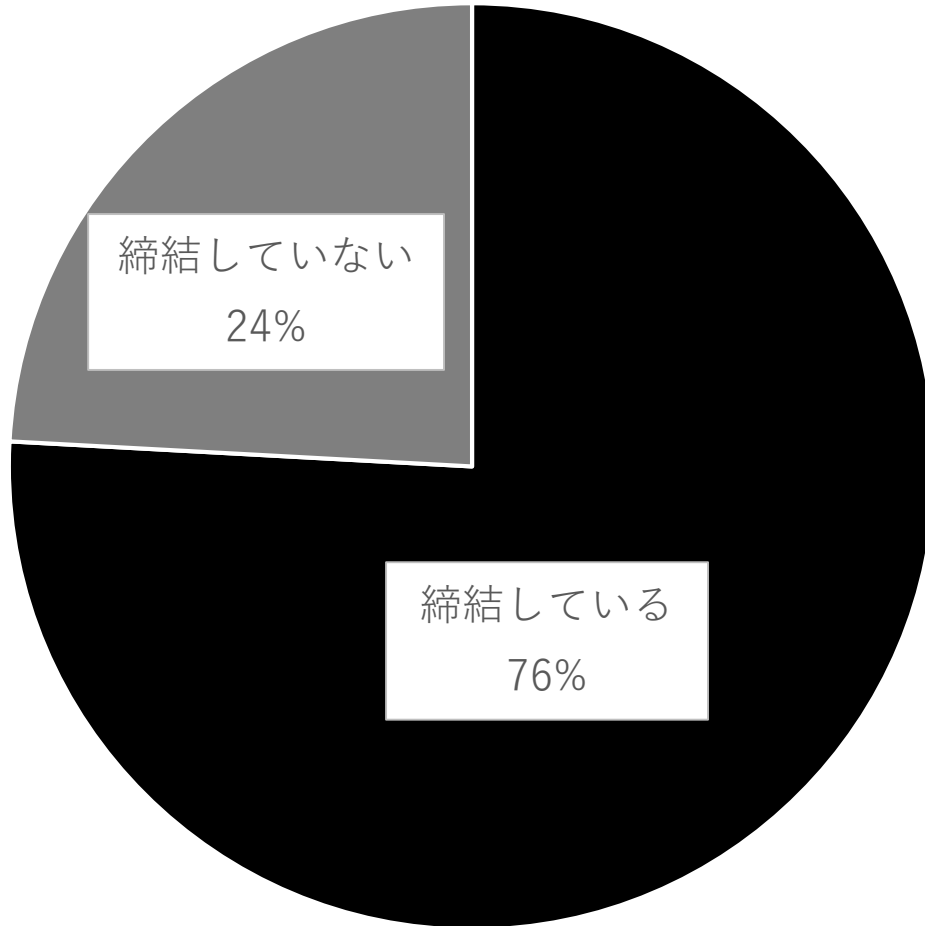


その他の取組

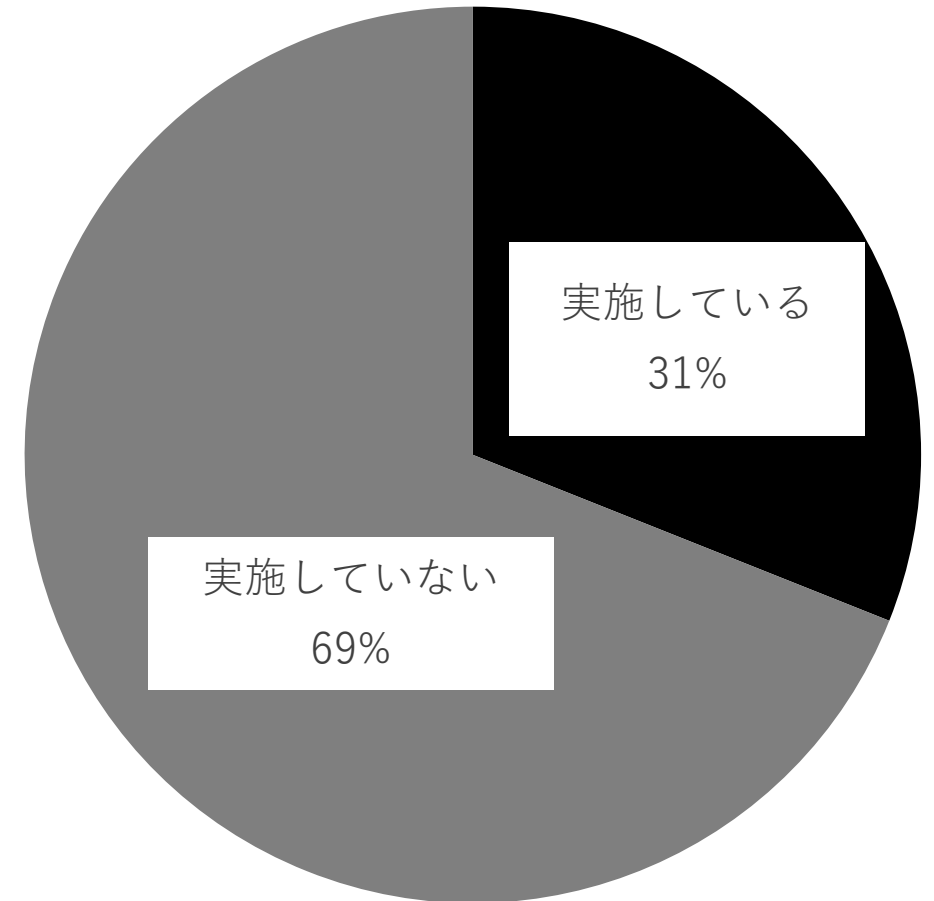


◆各市町と企業の見守り協定等の締結（N=29）

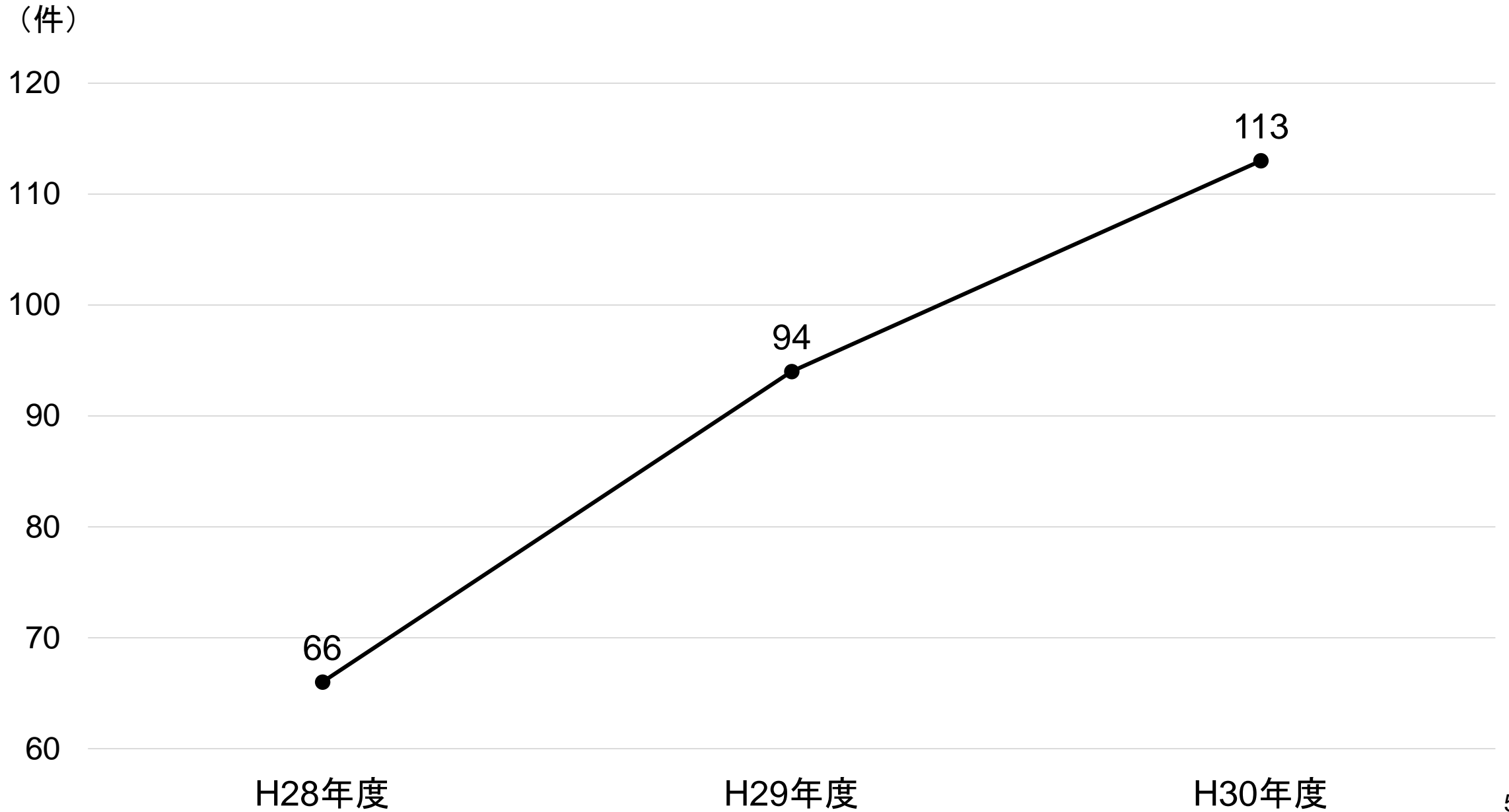
◆見守り協定の締結状況（N=29）



◆見守り協定以外の取組み状況（N=29）



◆認知症カフェの開催状況



◆認知症の啓発の取組状況（N=29）

